

【 科目等履修生・学部聴講生 】

※2023年3月8日現在

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否		シラバス連番	備考
											科目等履修生(学修)	聴講生		
心理学	7102001	系共通科目(心理学)(講義I)	4	通年	月	3			蘆田 宏,阿部 修士,熊田 孝恒,黒島 妃香,森口 佑介,Duncan Wilson,藤本 花音	日本語	○	○	行動・環境文化学系1	
心理学	7106001	系共通科目(心理学)(講義IIb)	2	前期	月	2			黒島 妃香	日本語	○	○	行動・環境文化学系2	
心理学	7109001	系共通科目(心理学)(講義IIe)	2	後期	火	2			蘆田 宏	日本語	○	○	行動・環境文化学系3	
心理学	7113001	系共通科目(心理学)(講義IIc)(発達心理学)	2	前期	火	2			森口 佑介	日本語	○	○	行動・環境文化学系4	
心理学	7136001	心理学(特殊講義A)(知覚・認知心理学)	2	前期	金	2			齋木 潤	日本語	○	○	行動・環境文化学系5	
心理学	7137001	心理学(特殊講義B)(知覚・認知心理学)	2	後期	金	2			齋木 潤	日本語	○	○	行動・環境文化学系6	
心理学	7138001	心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)	2	前期	水	4			阿部 修士	日本語	○	○	行動・環境文化学系7	
心理学	7170001	心理学研究法	2	後期	金	4			齋木 潤,上田 祥行,大倉 得史,畑中 千紘,三好 清文,黒島 妃香,阿部 修士	日本語	○	○	行動・環境文化学系8	
心理学	7172001	心理学概論	2	前期	金	3			森口 佑介,西田 真也,中島 亮一,齊藤 智,高松一礼,奈,月浦 奈,内田由紀子,高橋 雄介,田中 康裕,梅村 高太郎,山本 真也,平田 聡,長谷 雄太	日本語	○	○	行動・環境文化学系9	
心理学	7139001	心理学(臨床心理学概論)(特殊講義)	2	前期	火	2			松下 姫歌	日本語	○	○	行動・環境文化学系10	
心理学	7125001	心理学(心理学の支援法)(特殊講義)	2	後期	火	2			田中 康裕	日本語	○	○	行動・環境文化学系11	
心理学	7131001	心理学(特殊講義)	2	前期集中					溝上 陽子	日本語	○	○	行動・環境文化学系12	
言語学	7202001	系共通科目(言語学)(講義I)	2	前期	水	4			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah, 定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	○	行動・環境文化学系13	
言語学	7204001	系共通科目(言語学)(講義II)	2	後期	水	4			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah, 定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	○	行動・環境文化学系14	
言語学	7206001	系共通科目(言語学)(講義III)	2	前期	月	3			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah, 定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	○	行動・環境文化学系15	
言語学	7208001	系共通科目(言語学)(講義IV)	2	後期	月	3			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah, 定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	○	行動・環境文化学系16	
言語学	7231002	言語学(特殊講義)	2	後期	木	5			淺尾 仁彦	日本語	○	○	行動・環境文化学系17	
言語学	7231003	言語学(特殊講義)	2	前期	水	3			CATT, Adam Alvah	日本語	○	○	行動・環境文化学系18	
言語学	7231004	言語学(特殊講義)	2	前期	金	3			定延 利之	日本語	○	○	行動・環境文化学系19	
言語学	7231007	言語学(特殊講義)	2	後期	水	5			谷口 一美	日本語	○	○	行動・環境文化学系20	
言語学	7231008	言語学(特殊講義)	2	後期	金	3			定延 利之	日本語	○	○	行動・環境文化学系21	
言語学	7231009	言語学(特殊講義)	2	前期	水	3			山本 武史	日本語	○	○	行動・環境文化学系22	
言語学	7231010	言語学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			宮本 陽一	日本語	○	○	行動・環境文化学系23	
言語学	7231011	言語学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			井上 優	日本語	○	○	行動・環境文化学系24	
言語学	7231013	言語学(特殊講義)	2	前期	月	2			Tao PAN	英語	○	○	行動・環境文化学系25	
言語学	7231014	言語学(特殊講義)	2	後期	月	2			Tao PAN	英語	○	○	行動・環境文化学系26	
言語学	7231017	言語学(特殊講義)	2	後期	水	3			CATT, Adam Alvah	日本語	○	○	行動・環境文化学系27	
言語学	7231018	言語学(特殊講義)	2	前期	水	5			松本 亮	日本語	○	○	行動・環境文化学系28	
言語学	7231019	言語学(特殊講義)	2	後期	火	4			萩原 裕敏	日本語	○	○	行動・環境文化学系29	
言語学	7231020	言語学(特殊講義)	2	前期	金	1			野原 将揮	日本語	○	○	行動・環境文化学系30	
言語学	7241001	言語学(演習)	2	後期	木	3			笹間 史子	日本語	○	○	行動・環境文化学系31	
言語学	7241002	言語学(演習)	2	前期	木	2			ハシハワダナ ルチラ	日本語	○	○	行動・環境文化学系32	
言語学	7241003	言語学(演習)	2	前期	月	4			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah, 定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	○	行動・環境文化学系33	
言語学	7241004	言語学(演習)	2	後期	月	4			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah, 定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	○	行動・環境文化学系34	
言語学	7246001	言語学(基礎演習)	2	前期	水	2			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah, 定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	○	行動・環境文化学系35	
言語学	7246002	言語学(基礎演習)	2	後期	水	2			千田 俊太郎,CATT, Adam Alvah, 定延 利之,大竹 昌巳	日本語	○	○	行動・環境文化学系36	
言語学	9624001	スワヒリ語(初級)(語学)	2	前期	火	3			井戸根 綾子	日本語	○	○	行動・環境文化学系37	
言語学	9625001	スワヒリ語(中級)(語学)	2	後期	火	3			井戸根 綾子	日本語	○	○	行動・環境文化学系38	
言語学	9648001	朝鮮語(初級A)(語学)	2	前期	金	1			杉山 豊	日本語	○	○	行動・環境文化学系39	
言語学	9649001	朝鮮語(初級B)(語学)	2	後期	金	1			杉山 豊	日本語	○	○	行動・環境文化学系40	
言語学	7231006	言語学(特殊講義)	2	前期	水	4			谷口 一美	日本語	○	○	行動・環境文化学系41	
言語学	7231012	言語学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			脚後 時尚	日本語	○	○	行動・環境文化学系42	
言語学	7231021	言語学(特殊講義)	2	前期	水	4			米田 信子	日本語	○	○	行動・環境文化学系43	
言語学	7231001	言語学(特殊講義)	2	前期	月	2			大竹 昌巳	日本語	○	○	行動・環境文化学系44	
言語学	7231016	言語学(特殊講義)	2	後期	月	2			大竹 昌巳	日本語	○	○	行動・環境文化学系45	
言語学	7241005	言語学(演習)	2	後期	月	4			守田 貴弘	日本語	○	○	行動・環境文化学系46	
社会学	7302001	系共通科目(社会学)(講義I)	2	前期	水	2			田中 紀行	日本語	○	○	行動・環境文化学系47	
社会学	7304001	系共通科目(社会学)(講義II)	2	後期	水	2			太郎丸 博	日本語	○	○	行動・環境文化学系48	
社会学	7331001	社会学(特殊講義)	2	前期	金	4			松谷 美のり	日本語	○	○	行動・環境文化学系49	
社会学	7331003	社会学(特殊講義)	2	前期	火	2			Stephane Heim	日本語	○	○	行動・環境文化学系50	
社会学	7331005	社会学(特殊講義)	2	前期	月	5			岸 政彦	日本語	○	○	行動・環境文化学系51	
社会学	7331008	社会学(特殊講義)	2	前期	木	3			溝口 佑爾	日本語	○	○	行動・環境文化学系52	
社会学	7346004	社会学(演習I)	2	前期	木	2			田中 紀行	日本語	○	○	行動・環境文化学系53	
社会学	7361002	社会学(演習)	2	通年	水	4			太郎丸 博	日本語	○	○	行動・環境文化学系54	
社会学	7346001	社会学(演習I)	2	後期	木	2			岸 政彦	日本語	○	○	行動・環境文化学系55	
社会学	7346003	社会学(演習I)	2	後期	木	2			丸山 里美	日本語	○	○	行動・環境文化学系56	
社会学	7331002	社会学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			筒井 淳也	日本語	○	○	行動・環境文化学系57	
社会学	7331004	社会学(特殊講義)	2	後期	水	5			筒井 淳也	日本語	○	○	行動・環境文化学系58	
地理学	7431001	地理学(特殊講義)	2	前期	月	2			堀淵 知哉	日本語	○	○	行動・環境文化学系59	
地理学	7431002	地理学(特殊講義)	2	後期	月	2			堀淵 知哉	日本語	○	○	行動・環境文化学系60	
地理学	7431003	地理学(特殊講義)	2	前期	金	2			米家 泰作	日本語	○	○	行動・環境文化学系61	
地理学	7431004	地理学(特殊講義)	2	後期	金	2			米家 泰作	日本語	○	○	行動・環境文化学系62	
地理学	7431008	地理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			松四 雄騎	日本語	○	○	行動・環境文化学系63	
地理学	7431009	地理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			中島 弘二	日本語	○	○	行動・環境文化学系64	
地理学	7431010	地理学(特殊講義)	2	後期	月	5			花岡 和聖	日本語	○	○	行動・環境文化学系65	
地理学	7431011	地理学(特殊講義)	2	後期	火	1			土屋 純	日本語	○	○	行動・環境文化学系66	
地理学	7431012	地理学(特殊講義)	2	前期	木	2			池谷 和信	日本語	○	○	行動・環境文化学系67	
地理学	7431013	地理学(特殊講義)	2	後期	水	1			山本 理佳	日本語	○	○	行動・環境文化学系68	
地理学	7431014	地理学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			松さ 信尚	日本語	○	○	行動・環境文化学系69	
地理学	7431017	地理学(特殊講義)	2	前期	水	1			杉江 あい	日本語	○	○	行動・環境文化学系70	
地理学	7431018	地理学(特殊講義)	2	後期	火	5			杉江 あい	日本語	○	○	行動・環境文化学系71	

行動・環境文化学系1

科目ナンバリング		U-LET28 27102 LJ46										
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義 I) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 人と社会の未来研究院 准教授 阿部 修士 情報学研究科 教授 熊田 孝恒 文学研究科 教授 黒島 妃香 文学研究科 准教授 森口 佑介 文学研究科 講師 Duncan Wilson 文学研究科 助教 藤本 花音				
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語	
題目		実験心理学概論										
[授業の概要・目的]												
この講義の目的は、実験心理学の基礎的知識から最新の研究成果を身につけることにある。多様な心理学領域から、行動の科学としての目的、問題、手法、考え方などを学ぶとともに、最新の研究成果を知ることによって実験心理学を概観する。												
[到達目標]												
実験心理学の多様な領域に関する基本事項を理解するとともに、その最新の研究成果に触れることによって現在の研究の動向を理解することができるようになる。												
[授業計画と内容]												
<p>ヒトや動物の行動を解明するための実験心理学的手法とその成果について、最新のトピックやデモを織り込みながら、講座の教員全員および関連部局の教員によるリレー形式で講じる。 講義内容は以下の通りである。必修科目ではないが、心理学専修を希望する者はぜひ履修するよう強く推奨したい。</p> <p>第1回 実験心理学とは何か(全員) 第2回 脳と神経(蘆田) 第3回 感覚知覚の諸相(蘆田) 第4回 感覚知覚の歴史と基本法則 クロスモーダル知覚(蘆田) 第5回 心理物理学的測定法(蘆田) 第6回 知能(蘆田) 第7回 社会的知性(阿部) 第8回 意思決定(阿部) 第9回 注意(熊田) 第10回 実行機能(熊田) 第11回 バーチャルリアリティ(藤本) 第12回 身体(藤本) 第13回 学習理論(黒島) 第14回 記憶(黒島) 第15回 前期総括(黒島) 第16回 後期導入(黒島) 第17回 思考・推理(黒島) 第18回 社会的知性(黒島) 第19回 メタ認知(黒島)</p>												
-----系共通科目(心理学)(講義 I)(2)へ続く-----												

系共通科目(心理学)(講義Ⅰ)(2)

- 第20回 動物心理学と動物の福祉 (Wilson)
第21回 認知バイアスと感情 (Wilson)
第22回 脳と行動の一側優位性 (Wilson)
第23回 顔認知 (Wilson)
第24回 発達理論 (森口)
第25回 発達理論 (森口)
第26回 認知発達 (森口)
第27回 社会性発達 (森口)
第28回 感情発達 (森口)
第29回 総括 (全員)
第30回 試験

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験 (筆記) による(100%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
京都大学心理学連合 『心理学概論』 (ナカニシヤ出版) ISBN:9784779503993 (心理学の全貌を基礎から知るための概論書。)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

紹介された文献や参考図書を読んでおくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

心理学専修を希望する可能性がある者は、2回生で履修することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系2

科目ナンバリング		U-LET28 27106 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IIb) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 黒島 妃香			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		知性と感情の系統発生論									
【授業の概要・目的】											
多様な動物種の知性と感情の機能を学び、それらがいかに進化したのか、ヒトの心の働きは其中でいかに位置づけられるのかを考察する。											
【到達目標】											
動物たちのゆたかな心の働きを知り、心の多様性を学び、ヒトの心を相対化することを通じて、ヒト中心主義を脱し、新たなヒト観を構築する。ヒトが決して特別な存在ではないこと、多様な心の存在が地球共生系の未来へのカギであることを理解し、全ての生にとって真に幸福な未来を志向した、新たな行動指針を考える力を身につける。											
【授業計画と内容】											
ヒトの心の機能は数十億年にわたる進化の所産である。化石種の心が直接的に調べられない以上、他の現生動物種の心の働きを分析し、相互に比較することが、その過程を跡づけるための可能な唯一の方法である。講義では、学習の原理について復習したあと、比較認知科学的観点から、多様な動物種の感覚や知覚、記憶、言語、概念形成、感情、社会的知性、意識などについて現在までに得られた諸事実を紹介し、心の多様性とその進化について論じるとともに、ヒトの心を動物たちの心の中にどのように位置づければよいかを考える。以下の予定で講じるが、適宜変更もありうる。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロ - 比較認知科学事始め 2．学習1 (学習の基本的諸原理) 3．学習2 (学習の生物学) 4．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚1 (色彩視) 5．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚2 (形態視) 6．動物たちの記憶 7．動物たちの思考1 (推論) 8．動物たちの思考2 (概念) 9．動物たちのコミュニケーション 10．動物たちの感情 11．動物たちの社会的知性1 (欺きと協力) 12．動物たちの社会的知性2 (社会的知性の諸要素) 13．動物たちの意識と内省1 (自己認知・メタ認知) 14．動物たちの意識と内省2 (心的時間旅行) 15．総括 											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)へ続く -----											

系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)

[成績評価の方法・観点]

評価方法：講義後に行う小クイズや小レポートなどによる平常点（50%）、及び期末レポート（50%）により評価

評価基準：期末レポートについては、到達目標の達成度に基づき評価する

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の講義内容を、レジюмеや教科書、参考書などを参照して、整理しておくことが重要である。

（その他（オフィスアワー等））

受講者には、毎回の授業への出席と、積極的な質問や討論を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系3

科目ナンバリング		U-LET28 27109 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IIe) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		心理学講義IIe：知覚心理学									
【授業の概要・目的】											
人間の感覚・知覚について、視知覚を中心に概説する。心理物理学、解剖学、神経生理学などの知見をあわせて感覚・知覚の諸機能とそのメカニズムについて理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
ヒトの知覚機能についての基本的事項を理解し、心理学におけるより専門的なトピックを理解するための基礎を習得する。											
【授業計画と内容】											
講義内容は次の通り。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 感覚知覚の一般的特徴 2 視覚システムと基礎機能 3 色の知覚 4 明るさとコントラストの知覚 5 かたちの知覚 6 3次元空間の知覚 7 運動の知覚 8 知覚の恒常性 9 聴覚 10 音楽知覚 11 感性工学 12 視覚の諸相 13 その他の感覚と相互作用 14 総括 15 期末試験 16 フィードバック (実施方法は授業中に指示する) 											
なお、状況により一部の順序、内容を変更する可能性がある。											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(心理学)(講義IIe)(2)へ続く-----											

系共通科目(心理学)(講義IIe)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験（筆記）による。講義範囲についての到達目標達成度により評価する。
なお、社会的状況により期末試験の実施が困難な場合は他の評価法に変更する可能性がある。

[教科書]

吉澤達也 編 『感覚知覚の心理学』（朝倉書店）ISBN:978-4-254-52034-7（購入必須ではないが強く推奨する。）
教科書は2023年春に刊行予定

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義の後に教科書や関連する本，ウェブサイトなどを見て基本的事項を確認するとともに，各自の興味に合わせてより詳細な理解を得るように努める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは設定しない。面談希望はメールで受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系4

科目ナンバリング		U-LET28 27113 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森口 佑介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		認知発達論 (発達心理学)									
【授業の概要・目的】											
<p>ヒトの認識はいかに発生するのか。19世紀末から本格的に問われるようになった認知発達に関する問題は、20世紀に著しく発展し、21世紀には神経科学や生物学、言語学、社会学、経済学、教育学などとの接点を得て、新しい展開を迎えている。本講義では、認知発達に関する歴史的経緯を概観したのちに、認知発達の最新の知見について紹介する。意識、記憶、実行機能、社会的認識などを例に取り上げながら、認識がいかに発生するか、遺伝的要因と環境的要因にいかなる影響をうけるかを講義する。</p>											
【到達目標】											
ヒトの認知発達に関するプロセスやメカニズムを説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 認知発達理論小史(1)ピアジェ 3 認知発達理論小史(2)ヴィゴツキーから新生得主義まで 4 認知発達理論小史(3)情報処理理論からコネクショニズムまで 5 脳の発達理論 6 遺伝と環境 7 記憶の発達 8 実行機能の発達 9 社会的認識の発達 10 自己の発達 11 想像力の発達 12 情動の発達 13 意識の発生 14 発達障害 15 まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価 (50点) およびレポート課題を課す (50点)											
----- 系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) (2)へ続く -----											

系共通科目(心理学)(講義IId)(発達心理学)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

森口佑介 『おさなごころを科学する 進化する乳幼児観』(新曜社)

森口佑介 『自分をコントロールする力 非認知スキルの心理学』(講談社現代新書)

森口佑介 『子どもの発達格差 将来を左右する要因は何か』(PHP新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。読んでおくべき論文や文献等紹介する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系5

科目ナンバリング		U-LET28 37136 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義A) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学 (知覚・認知心理学)									
【授業の概要・目的】											
認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定などを含む広い分野であるが、本講義は、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、視覚認識における記憶、注意の役割に焦点を当てて解説する。											
【到達目標】											
視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。 第1回 インTRODクシヨN 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 3次元構造の知覚 第7 - 8回 物体認識 第9 - 10回 視覚認知における記憶の機能 第11 - 12回 視覚認知における注意の機能 第13 - 14回 認知における特徴の統合 第15回 試験 第16回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点 20%、期末試験 80%で評価する。素点(100点満点)で評価する。 平常点は、授業の各回にPandAのクイズツールを使ったクイズへの回答によって評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 心理学(特殊講義A) (知覚・認知心理学) (2)へ続く -----											

心理学(特殊講義A) (知覚・認知心理学) (2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。

(その他 (オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系6

科目ナンバリング		U-LET28 37137 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学 (知覚・認知心理学)									
【授業の概要・目的】											
認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定、運動制御などを含む広い分野であるが、本講義では、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、探索行動を題材に取り上げ、知覚、意思決定、眼球運動の機能に焦点を当てて解説する。											
【到達目標】											
視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。											
第1回 イン트로ダクション 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 シーンの認知 第7 - 8回 探索行動における視覚の機能 第9 - 10回 視覚探索と眼球運動 第11 - 12回 探索行動における意思決定 第13 - 14回 探索行動における記憶の役割 第15回 試験 第16回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点 20%、期末試験 80%で評価する。素点(100点満点)で評価する。 平常点は、授業の各回にPandAのクイズツールを使ったクイズへの回答によって評価する。											
----- 心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) (2)へ続く -----											

心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系7

科目ナンバリング		U-LET28 37138 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義)(神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人と社会の未来研究院 准教授 阿部 修士			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学(特殊講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、心理過程と生理学的な活動との対応関係を探る研究分野における、主要な方法論 - 具体的には、神経心理学や脳機能イメージングといった認知神経科学的手法 - を解説する。研究手法についての理解を深めた後に、前頭葉機能・記憶・情動・意思決定など、主に社会神経科学 (Social Neuroscience) における知見を中心に概説する。これまでに得られている基礎的な知見に加え、発展的・建設的な思考能力を身につけることで、受講者がそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。</p> <p>また本講義では、英語によるTED talksも活用する。第一線の研究者による英語のプレゼンテーションを視聴することで、研究を俯瞰的にとらえると共に、研究を行う上で必要なスキルを意識する機会を提供する。</p>											
【到達目標】											
<p>認知神経科学・社会神経科学の基礎を身につけ、自身の研究に活かせるようにする。 認知神経科学・社会神経科学の研究における発展的・建設的な思考能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
初回にオリエンテーションを行う。2週目以降は以下のような内容について授業を行う予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 認知神経科学の研究手法：神経心理学による研究 3. 認知神経科学の研究手法：fMRI 4. 認知神経科学の研究手法：その他の脳機能の測定手法 5. 前頭葉機能：下位領域の区分 6. 前頭葉機能：機能の評価とこれまでの知見 7. 記憶の神経機構 8. 未来思考/プロスペクシオンの神経基盤 9. 情動の神経基盤 10. 報酬と意思決定 11. 選好判断 12. 道徳的判断 13. 文化神経科学 14. 発達社会神経科学 15. 講義全体のまとめ及びフィードバック 											
<p>なお各講義の終盤には、取り扱うトピックに関連する英語のTED talks (http://www.ted.com/talks) を教材として用いる。TED talksでは世界的に著名な研究者による優れた講演が行われており、最新の研究成果・現在のトレンド・英語によるプレゼンテーションの方法など、研究を行うために必要な</p>											
心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)(2)へ続く											

心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)(2)

多くの知識とスキルを学ぶ貴重な機会を提供するものである。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

【評価方法】

平常点評価(50%)及びレポート(50%)。
4回以上欠席した場合には単位を認めない。

【教科書】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回のオリエンテーション時に、教材として使用するTED talk (<http://www.ted.com/talks>) についての紹介を行う。予習は必須ではないが、繰り返し視聴することによって、理解を深めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系8

科目ナンバリング		U-LET28 17170 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学研究法 Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤 人と社会の未来研究院 特定講師 上田 祥行 国際高等教育院 教授 大倉 得史 教育学研究科 准教授 畑中 千紘 情報学研究科 助教 三好 清文 文学研究科 教授 黒島 妃香 人と社会の未来研究院 准教授 阿部 修士			
配当年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		心理学研究法									
[授業の概要・目的]											
心理学を初めて学ぶ大学1回生、他の回生を対象として、心理学固有の方法論とその歴史的背景を幅広く学ぶとともに、それらの方法を使うための基本的なスキルの習得を目指す。観察法、面接法、質問紙法、実験法などの代表的な研究法を取り上げ、古典的な研究例のデモンストレーションを行うとともに、研究法の歴史などにも触れる。											
[到達目標]											
心理学の講義では、主として、心理学的な現象や事実を学ぶが、この授業では、それらの現象や事実を発見するために心理学が発展させてきた方法論の基礎を学ぶことを目指す。心理学を知識として学ぶだけでなく、将来自身で心理学の研究を目指す学生にとっては必須の科目である。											
[授業計画と内容]											
2コマを1単元として、基本的な研究法を実習やデモンストレーションを用いながら紹介する（単元の順番は変わることがある）。また、研究倫理の説明を行う。											
<p>第1回 イン트로ダクション 齋木(人環)</p> <p>第2 - 3回 質問紙法・テスト法 上田(人社会)</p> <p>第4 - 5回 観察法 大倉(国際高等教育院)</p> <p>第6 - 7回 面接法 畑中(人社会)</p> <p>第8 - 9回 実験1(認知) 三好(情報学)</p> <p>第10 - 11回 実験2(学習) 黒島(文学)</p> <p>第12 - 13回 実験3(生理) 阿部(人社会)</p> <p>第14回 まとめ(全員)</p> <p>第15回 フィードバック(全員)</p>											
* 全学共通科目のフィードバック期間中に授業のフィードバックを行う。											
各単元では、古典的な研究例のデモンストレーションを行うとともに、研究法の歴史などにも触れる。 各単元ごとにレポートを提出。											
----- 心理学研究法(2)へ続く -----											

心理学研究法(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

各單元ごとに提出するレポートによって評価する。レポートは、各單元の内容の理解、レポート課題の出来、期日までに提出しているかなどを総合的に評価する。6単元のレポートの評点の平均点を最終評価とする（未提出のレポートは0点と換算）。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習は特に必要ないが、レポートを作成するための作業が必要。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは担当教員ごとに、KULASIS及び授業内でアナウンスする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 27172 LJ46										
授業科目名 <英訳>		心理学概論 Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森口 佑介 情報学研究科 教授 西田 眞也 情報学研究科 准教授 中島 亮一 教育学研究科 教授 齊藤 智 人間・環境学研究科 教授 月浦 崇 人と社会の未来研究院 教授 内田 由紀子 国際高等教育院 准教授 高橋 雄介 教育学研究科 教授 田中 康裕 教育学研究科 特定助教 長谷 雄太 高等研究院 准教授 山本 眞也 野生動物研究センター 教授 平田 聡				
配当年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語	
題目		心理学概論										
【授業の概要・目的】												
<p>心理学は人の仕組みと働きを解明する学問である。本講義は、国家資格である公認心理師を目指す学生が、はじめて心理学を学ぶための科目である。その内容は、心理学のさまざまな研究分野において、心の探究がどのように進められてきたかという心理学の成り立ちと、心の基本的な仕組みと働きについて解説をする。特に人間の心の基礎的な側面に着目し、知覚、認知、学習、感情などの心の機能、およびこれら心の機能を実現する脳、ならびにその発達、社会や教育との関連をとりあげる。さらに、心の機能の個人差をもたらす人格、心の機能に関わる困難を心理学的に支援するための臨床や障害などのトピックを取り上げる。</p> <p>本講義は、京都大学・心の科学ユニットに所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて概論講義を行う。</p>												
【到達目標】												
1．心理学の成り立ちについて概説できる。 2．人の心の基本的な仕組みおよび働きについて概説できる。												
【授業計画と内容】												
<p>多様な観点から多様な方法論を駆使して展開されている現代の心理学研究の全体像を知るための概論科目である。各回では、その分野の心理学の成り立ちと、心の基本的な仕組みと働きについて解説をする。以下のスケジュールで、各担当教員が1回の講義をおこなう予定である。なお、順序は変更となることがある。</p> <p>1.序論 森口佑介(文) 2.知覚 西田眞也(情報) 3.認知1 中島亮一(情報) 4.認知2 齊藤智(教育) 5.感情 高松礼奈(教育) 6.神経・生理 月浦崇(人環) 7.発達 森口佑介(文)</p>												
----- 心理学概論 (2)へ続く -----												

心理学概論 (2)

- 8.社会・集団 内田由紀子（人社会）
- 9.教育 高橋雄介（教育）
- 10.心の進化 山本真也（高等研究院）
- 11.社会的知性 平田聡（野生動物）
- 12.臨床1 田中康裕（教育）
- 13.臨床2 梅村高太郎（教育）
- 14.まとめ
- 15.期末試験・フィードバック

【履修要件】

公認心理師資格取得希望者は、年度初めに開催される、公認心理師科目履修ガイダンスを受講すること

【成績評価の方法・観点】

期末試験（筆記）100%

【教科書】

京都大学心理学連合 『心理学概論』（ナカニシヤ出版）ISBN:978-4-7795-0399-3

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習すべきこと

・KULASIS上の授業資料，教科書の該当箇所あらかじめ読んでおくこと。

復習すべきこと

・授業では教科書を参照するが，時間の制約上，該当する章の全範囲を必ずしも扱うわけではない。取り扱われなかった領域については，自身で教科書を読んで理解すること。また教科書に含まれない最先端の内容等も盛り込まれる場合があるので，授業で理解できなかった部分や興味を持った部分については図書館等で関連書籍を探し，復習すること。

（その他（オフィスアワー等））

各学部の心理学専修，心理学系に進学を希望し，公認心理師資格の受験資格を得ることを目指す学生は，1，2年生のあいだに本講義を履修することが望ましい。なお，シラバス記載の担当教員ならびにスケジュールには変更がありうる。その場合にはあらかじめ連絡する。

【連絡事項】

以下の点は現時点で未定のため、メールおよびPandAサイトを必ず確認してください

- ・指定された期日までにKULASISで仮登録（候補科目としての選択）をしてください。
- ・指定された期日には、PandAによってガイダンス資料の配布を行います。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37139 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義)(臨床心理学概論) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 松下 姫歌			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		臨床心理学概論Ⅰ									
【授業の概要・目的】											
<p>心とは何か、心理療法とは何か、治癒や成長とは何か、という本質的問題を根底において、心理療法とその基礎理論である臨床心理学について概説する。</p> <p>具体的には、臨床心理学および心理療法の歴史的背景と代表的理論の3大潮流について概観しそれらの共通点と相違点について論じる。</p> <p>それを踏まえた上で、主として、ユングの分析心理学を中心に、その理論と実践のエッセンスについて論じる。その具体的な問題理解の視点、心的リアリティの性質を捉えアプローチする視点、研究・探究の視点について論じる。</p> <p>そのことを通じて、他学派の心理療法の理論や関連領域の理論とのより具体的な比較をおこない多面的な理解の視点について論じる。</p> <p>これらを通じ、分析心理学的アプローチの基本となる点を理解すること、および、分析心理学の理論をクリティカルに敷衍することで、心における普遍的問題と現代的問題とそのアプローチについて考え、理解を深めることを目的とする。</p> <p>また、心の問題は、人が生きるさまざまな分野・領域にかかわる。保健医療分野や学校教育分野をはじめ、主要5分野において、乳幼児期から老年期にわたって幅広くみられる様々な問題に関して、事例をとりあげつつ、問題の理解と支援の実際について具体的検討を通じて学ぶことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床心理学および心理療法の歴史的背景と成り立ちについて理解し、代表的なアプローチ（理解と支援のための理論と方法）の特徴および相違点・共通点を理解する。 2) ユングの分析心理学の基本理論を理解することで、臨床心理学および心理療法における代表的理論の相違点・共通点を検討し、臨床心理学と心理療法の本質的理解を深める。 3) 心理療法の基本的姿勢と技法について理解する。 4) 発達期上の課題および心的問題（精神科的問題を含む）について理解する。 5) 具体的な事例について理解し、支援について考えることができる。 6) 主要5分野（保健医療、福祉、学校教育、司法・犯罪、産業・労働）における心理臨床とその意義、多職種連携・地域連携の重要性を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：臨床心理学とその成り立ち</p> <p>第3回：臨床心理学と心理療法：代表的理論の3大潮流をめぐって ：力動的アプローチ</p> <p>第4回：臨床心理学と心理療法：代表的理論の3大潮流をめぐって ：認知行動的アプローチ・人間学的アプローチ</p> <p>第5回：心の成長と心的体験の理解</p> <p>第6回：心の危機とその理解</p>											
----- 心理学(特殊講義)(臨床心理学概論)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(臨床心理学概論)(2)

- 第7回：ユングにおける心の危機論： 中年期の問題・うつ病の理解と支援
- 第8回：心の危機論： 思春期の問題・不登校の理解と支援
- 第9回：心の危機論： 思春期の問題・いじめの理解と支援
- 第10回：心の危機論： 親子の問題(非行, 虐待)の理解と支援
- 第11回：心の危機論の敷衍・主体の問題： 強迫性障害の理解と支援
- 第12回：主体の問題： 思春期妄想症・妄想型統合失調症の理解と支援
- 第13回：主体の問題： 統合失調症の理解と支援
- 第14回：主体の問題： 発達障害の理解と支援
- 第15回：期末試験/学習到達度の評価, 心理療法と臨床心理学の本質・まとめ
- 第16回：フィードバック(方法は別途連絡します)

但し, 学修状況等に応じて, 内容や順序が変更される場合がある。

[履修要件]

講義で呈示された事例についての守秘義務に関する約束を守れること(オリエンテーションで説明します)。

[成績評価の方法・観点]

出席を前提として,
1. 毎回の授業終了時に提出する小レポート(50%)
2. 年度末(授業の最終回頃)に行う筆記試験(50%)
をもとに,
上記の到達目標の観点から総合的に評価する。

[教科書]

松下 姫歌 『ネガティブ・イメージの心理臨床: 心の現代的問題へのゼロベース・アプローチ』(創元社, 2021) ISBN:978-4422117690
松下 姫歌 『心的現実感(リアリティ)と離人感: 質問紙と風景構成法から見る新たな心理アセスメントへの展開』(創元社, 2019) ISBN:978-4422116471

[参考書等]

(参考書)

皆藤章・松下姫歌 『心理療法における「私」との出会い: 心理療法・表現療法の本質を問い直す』(創元社, 2014) ISBN:978-4422113708
その他の参考文献は授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

- 1) 授業で紹介するテキストや文献を読む。
- 2) 授業やテキスト・文献などで, わからない点・疑問点や興味をもった点などは, 自分でも調べてみる。
- 3) 他の知識等ともすり合わせて, 自分なりの理解を組み立てたり, パースペクティブを広げ深めてみたり, という知的作業をくりひろげてみる。
- 4) 臨床心理学は心の生き死にに関わる学問であり, 心が体験するありとあらゆることが関係する。

科目ナンバリング		U-LET28 37125 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義)(心理学的支援法) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 田中 康裕			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学(特殊講義)(心理学的支援法)									
【授業の概要・目的】											
以下の3点についての知識を習得する。											
1．臨床心理学の対象と方法、2．心理臨床の理論と実践、3．対象別にみた心理臨床の実際											
心理臨床における「対象」は単なるobjectではなく、subjectとして心理臨床それ自体を創造してきたものでもある。理論と実践が不可分である心理臨床の本性について学ぶ。											
【到達目標】											
精神疾患の分類も含めた臨床心理学、および心理臨床の実際に関する基礎的な理解力を身につける。											
また、そのための前提として、心理学的支援法に関する以下の初歩的な基本的事項について理解する。											
(1) 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史，概念，意義，適応および適用の限界について概説できる。											
(2) 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。											
(3) 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。											
(4) 心理学的支援に必要なコミュニケーション能力を身に着ける。											
(5) 心理学的支援における倫理について理解し，心理に関する支援を要する者等のプライバシーへの配慮ができる。											
【授業計画と内容】											
第1回：オリエンテーション / 第2回：臨床心理学の対象と方法(1) 精神障害の古典的分類 / 第3回：臨床心理学の対象と方法(2) 心理査定と初期面接1 / 第4回：臨床心理学の対象と方法(3) 心理査定と初期面接2 / 第5回：臨床心理学の対象と方法(4) 心理査定と初期面接3 / 第6回：心理臨床の理論と実践(1) フロイトと精神分析 / 第7回：心理臨床の理論と実践(2) ユングと分析心理学1 / 第8回：心理臨床の理論と実践(3) ユングと分析心理学2 / 第9回：心理臨床の理論と実践(4) ヒルマンと元型的心理学 / 第10回：対象別にみた心理臨床の実際(1) 神経症 / 第11回：対象別にみた心理臨床の実際(2) 精神病 / 第12回：対象別にみた心理臨床の実際(3) 人格障害 / 第13回：対象別にみた心理臨床の実際(4) 解離と発達障害 / 第14回：心理臨床家の資格と専門性 / 第15回：まとめ											
心理学(特殊講義)(心理学的支援法)(2)へ続く											

心理学(特殊講義)(心理学的支援法)(2)

【履修要件】

事例提示も含まれるため、守秘義務を守れること。

【成績評価の方法・観点】

出席状況(30%)、小レポート(70%)を総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

紹介された文献等を参考にして、授業内容についての理解を深めた上で、小レポートを作成すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系12

科目ナンバリング		U-LET28 37131 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		千葉大学工学研究院 教授 溝上 陽子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		色の知覚と認知									
【授業の概要・目的】											
<p>私たちにとって色は身近なものだが、色とは何か、私たちがどのように色を知覚しているのか、という問いに答えることは難しい。なぜなら、色は私たちの脳内に作りだされる主観的なものだからである。一方で、色を系統的・定量的に表す数々の手法が存在している。本講義では、私たちが色を見るための色覚メカニズムと、色の知覚や認知に影響を与える様々な要素を、物理的、心理的、生理学的等、様々な観点から理解すること、また、色を利用するために必要な色の表し方を習得することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
色の知覚と認知に関わる視覚メカニズムを理解する。また、様々な色の表し方を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の通り講義を進める。ただし講義の進みぐあいにより変更されることがある。</p> <p>第1回 インTRODクシヨN 第2回 放射と光，そして色 第3回 色覚のメカニズム 第4回 人間の視覚系の構造と機能 第5回 色覚の多様性 第6回 自然界の色と動物の色覚 第7回 色の表し方：カラーオーダーシステム 第8回 色の表し方：CIE表色系 第9回 混色と色再現 第10回 観察条件が色の知覚に与える影響 第11回 色知覚の環境適応性 第12回 認識，記憶，文化等が色の認知に与える影響 第13回 色彩と心理 第14回 色彩の応用 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の小レポート（50点）、最終レポート（50点）により評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 心理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

心理学(特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17202 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義 I) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学概論 音声学・音韻論・形態論を中心に									
【授業の概要・目的】											
言語学は、人間のコトバに関わる現象の分析を通じてコトバの使用やその能力を人間が理解可能な形で明らかにしようとする学問である。私たちにとってコトバはきわめて身近な存在でありながら多くの受講生にとって言語学はなじみのない学問領域であると思われる。この授業では、言語学の専門的知識をもたない学生を対象として、言語や言語音を研究するためにこれまで用いられてきた基礎的な概念や用語、分析方法について紹介し、その必要性や問題点を概観する。											
【到達目標】											
言語学の各分野で使われている概念・用語や分析方法についての基礎的知識を修得し、そうした知識を用いて実際に言語データを分析することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
この授業では、人間言語の特徴と言語研究の方法について概観したのち、言語学を構成する主要分野のうち音声学・音韻論と形態論に関するトピックを中心に解説する。以下のようなスケジュールと題目で授業を進める予定である。今年度は大竹昌巳がすべての授業を担当する。											
第1回 ガイダンスとイントロダクション 第2回 言葉話す 人間言語の特徴 第3回 言葉探究する 言語研究の方法 第4回 音を出す 調音音声学 第5回 音を書く 国際音声記号 第6回 音を見る 音響音声学 第7回 音を別ける 音素分析 第8回 音を分ける 音節とモーラ 第9回 音を上げる・下げる アクセントとイントネーション 第10回 語を分ける 形態素分析 第11回 語を変える 派生と屈折 第12回 語を合わせる 複合 第13回 声に出して読みたい日本語 リズム 第14回 語を再考する 形態論と統語論 第15回 フィードバック											
----- 系共通科目(言語学)(講義 I)(2)へ続く -----											

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（不定期の小レポート）【40%】および定期試験（筆記）【60%】により評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の中で分からなかった概念・用語や興味をもった事柄は、授業で紹介される文献等を参考に自分で調べて知識として定着させてほしい。ただし、大学での学びにおいて唯一絶対の正解は存在しない。教師の言うことや本に書いてあることには常に疑いの目を向け、自分なりにあれこれ考えてみる大切である。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系14

科目ナンバリング		U-LET29 17204 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義Ⅰ) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学概論Ⅱ - - 談話文法, 統語論, 意味論を中心に									
[授業の概要・目的]											
この授業では, さまざまな研究者の言説の解説を通じて, 言語学の理論的前提と方法論を教授し, 同時に言語の奥深さを体験してもらう。											
[到達目標]											
言語学の理論と基本的な分野に関して, 以下のことを理解する。 1) 何が問題となっているのか。 2) その問題に対してどのような考えがあるのか。 3) それらの考えの背後に, どのような言語観ひいては人間観があるのか。											
[授業計画と内容]											
言語学の目的は, 言語の考察を通して人間を理解することにあるが, その道は一つではなく多様である。この授業では現代言語学のさまざまな考えを紹介しながら, その問題意識をなるべく具体的な形で解説する。中心的なトピックは, 統語論, 談話文法, 意味論である。今年度は定延利之がすべての授業を担当する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. ソシユールの記号的な言語観 3. 言語学の諸分野 4. 発話というコミュニケーション行動 5. 談話 1 6. 談話 2 7. 談話 3 8. 構造主義言語学と「認知革命」 9. チョムスキー言語学の合理主義的特徴 10. 生成意味論と認知言語学 11. 表象主義と状況論 12. チョムスキー言語学と言語類型論 13. 言語類型論からアプローチする言語普遍性 14. 「する」言語と「なる」言語 15. まとめ 											
-----系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)へ続く-----											

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

[履修要件]

前期の言語学講義Ⅰを履修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

筆記試験

[教科書]

資料は電子的に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

いくつかの基本的現象に関しては、世界諸言語の言語データを分析する。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17206 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語変化の考え方									
[授業の概要・目的]											
<p>言語学についての予備知識がない学生を対象にして、歴史言語学の考え方を紹介する。音変化、類推、文法化、統語変化、語彙変化、比較方法、祖語の再建などの基本的な概念を取り上げて、</p> <p>(1) 言語はどのように変化するのか</p> <p>(2) 言語はなぜ変化するのか</p> <p>という問題について考える。</p>											
[到達目標]											
言語変化の基本的な考え方が把握され、歴史言語学の分野が理解できるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>Bybee (2015) の以下の章について、順次に考察する。なお、今年度は Adam A. Catt がすべての授業を担当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業紹介 2. 第1章 言語変化の研究 3. 第2章 音変化 4. 第3章 より広い観点からの音変化と音韻変化 5. 第4章 音変化と文法間の相互作用 6. 第5章 類推変化 7. 第6章 文法化 8. 第7章 文法化の共通経路 9. 第8章 統語変化 10. 第9章 語彙変化 11. 第10章 比較、再建、および類型論 12. 第11章 言語変化はなぜ起こるのか 13. まとめと諸問題 14. まとめと諸問題 15. まとめと諸問題 											
[履修要件]											
特になし											
----- 系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く -----											

系共通科目(言語学)(講義II)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中に指示する課題（75%）と平常点（25%）を勘案する。

[教科書]

Joan Bybee 『Language Change』（Cambridge University Press, 2015）ISBN:978-1-107-65582-9

Joan Bybee 『言語はどのように変化するのか』（開拓社, 2019）ISBN:978-4-7589-2272-2

使用する教科書は、英語版と和訳があります。内容は同じですので、自分にとって使いやすい方を買ってください。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

予習と復習を必ずすること。

（その他（オフィスアワー等））

授業の後に、相談を受け付ける。それ以外でも適宜面談の機会を持つが、メールなどで事前にアポイントメントを取ることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17208 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学の歴史									
[授業の概要・目的]											
<p>言語の研究は長い歴史を有するが、高校までの教科に「言語学」科目が存在しないため、多くの受講生にとってなじみの薄い研究分野になるのではないかと懸念される。この講義では、言語学についての予備知識がない学生を対象にして、古代から現代に至る言語研究の歴史を概観することによって、人間が言語に対してもってきた関心の向け方と捉え方の変遷を辿り、今日の言語学の研究方法や、そこで使用される概念・用語の成立の背景について講義する。</p>											
[到達目標]											
<p>過去の言語研究の流れの概要を把握し、現在の言語学の術語や概念の成立の事情が理解する。さまざまな言語における言語事実を基礎知識として身につけ、言語の在り方についての理解を深める。この、言語事実の多様性を前提として、その背後に存在する通言語的な規則性が見出されてきた歴史を把握する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>言語研究に大きな影響を及ぼした個人や分析手法を取り上げ、その成果について解説する。今年度後期は千田俊太郎がすべての授業を受け持つ。解説は、以下の順序に沿って行ってゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに: 古代の言語学 2. 母語の「発見」と異民族語の「発見」 3. 「インド」との遭遇 4. フンボルト 5. 言語学と科学 6. 青年文法学派 7. 言語学の多様化: ドイツ語圏 8. 言語学の多様化: 非ドイツ語圏 9. 新しい言語学の兆し 10. アメリカ構造主義 11. 日本と言語学 12. プラーク学派 13. 言語普遍の探究へ 14. 現代言語学 15. まとめ 											
-----系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く-----											

系共通科目(言語学)(講義II)(2)

【履修要件】

他の「言語学講義(I, II)」のどれかを履修済みであることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

積極的な授業参加(60%)、定期試験(40%)

【教科書】

資料配布

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

研究史をみてゆくため、挙げられる用語や人名は多目である。プリントを参考に復習していただきたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは設けない。面談が必要な学生は授業後に予約をとること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系17

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 浅尾 仁彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		コーパスと言語研究									
【授業の概要・目的】											
言語研究において近年重要な役割を果たすようになってきているコーパスについて、その意義と限界を学ぶとともに、コーパスを実際に扱うための具体的な技術を身につけます。特定のコーパスやツールの使い方を学ぶのではなく、ソフトウェアが世代交代しても無駄になることのない基本的な考え方を身につけることを重視します。											
【到達目標】											
言語研究におけるコーパスの役割について理解するとともに、既製のコーパス検索ツール等に頼らずともコーパスを自在に扱えるようになるための基礎を身につけます。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン 第2回 コーパスの基本概念とテキストデータ 第3回 検索と正規表現 第4回 頻度と統計 (1) 基本 第5回 頻度と統計 (2) 進んだ話題 第6回 論文紹介 (1) 第7回 論文紹介 (2) 第8回 Pythonによるテキスト処理 (1) 基本 第9回 Pythonによるテキスト処理 (2) 検索 第10回 Pythonによるテキスト処理 (3) 集計 第11回 Pythonによるテキスト処理 (4) 進んだ話題 第12回 研究発表 (1) 第13回 研究発表 (2) 第14回 研究発表 (3) 第15回 まとめ 授業計画は仮のものです。内容・日程は、受講者の人数・興味関心に応じて柔軟に変更することがあります。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への積極的な参加 (30%)、宿題 (30%)、期末レポート (40%)											
【教科書】											
使用しない											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

石川慎一郎 『ベーシックコーパス言語学 第2版』 (ひつじ書房, 2021)

浅尾仁彦・李在鎬 『言語研究のためのプログラミング入門』 (開拓社, 2013)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内容の復習として、シンプルな宿題を2、3回程度課します。また、授業では、先行研究の紹介や、自身の研究プロジェクトについての発表をお願いすることがありますので、その準備が必要です。期末レポートについては早めのテーマ設定など、計画性が求められます。

(その他(オフィスアワー等))

- ・ パソコンを授業に持ち込めることが望ましい(OSなどは問わない)ですが、難しい場合は相談に応じます。
- ・ 授業時間外に連絡事項などある場合はメール等で対応します。詳細については授業中に共有します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系18

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系19

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語話しことばの文法									
【授業の概要・目的】											
この授業では、日本語の話しことばの規則性の観察を通して、音声言語をつかさどる基本的な概念と原理を学ぶ。より具体的には、文法に表出性而非流暢性の概念を持ち込むことで、現実の発話がどのように説明されるかを検討する。											
【到達目標】											
以下の能力を身に付けることを達成目標とする。 [1] 話しことば研究を推進するための基礎的な知識と技法を、受講者が自身で獲得していけるようになる。 [2] コミュニケーション研究、音声研究、そして文法研究を含む統合的な研究枠組みを自ら構想できるようにする。											
【授業計画と内容】											
各回の内容は以下のとおりだが、受講者の理解度や議論の展開次第では変更の可能性がある。 第1回 コミュニケーションの中の日本語の文法 第2回 いま・ここ1 第3回 いま・ここ2 第4回 いま・ここを超えた世界 第5回 責任者の特権性 第6回 体験者の特権性 第7回 デキゴトの基本類型1 第8回 デキゴトの基本類型2 第9回 ここまでの補足と議論 第10回 きもちの文法1 第11回 きもちの文法2 第12回 知識と体験1 第13回 知識と体験2 第14回 ここまでの補足と議論 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない
資料は電子的に配布する。

[参考書等]

(参考書)

定延利之(編)『発話の権利』(ひつじ書房, 2020年) ISBN:978-4894769830 (第5回・第7回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションと言語におけるキャラ』(三省堂, 2020年) ISBN:978-4385349121 (第8回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『文節の文法』(大修館書店, 2019年) ISBN:9784469213751 (第2回・第4回・第5回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションへの言語的接近』(ひつじ書房, 2016年) ISBN:978-4894769472 (第7回・第8回の授業内容に最もよく関連する。)

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 谷口 一美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学の理論的概要 第3回：言語学と心理学の関わり (1)：図と地の分化（導入） 第4回：言語学と心理学の関わり (1)：図と地の分化（考察） 第5回：言語学と心理学の関わり (2)：視線と主観性（導入） 第6回：言語学と心理学の関わり (2)：視線と主観性（考察） 第7回：カテゴリー化と言語 (1)：プロトタイプ・カテゴリー（導入） 第8回：カテゴリー化と言語 (1)：プロトタイプ・カテゴリー（考察） 第9回：カテゴリー化と言語 (2)：抽象化とスキーマ（導入） 第10回：カテゴリー化と言語 (2)：抽象化とスキーマ（考察） 第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入） 第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察） 第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート (70%)、授業への取り組みの状況 (30%) から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語話しことばの文法									
【授業の概要・目的】											
この授業では、日本語の話しことばの規則性の観察を通して、音声言語をつかさどる基本的な概念と原理を学ぶ。より具体的には、文法に表出性と非流暢性の概念を持ち込むことで、現実の発話がどのように説明されるかを検討する。											
【到達目標】											
以下の能力を身に付けることを達成目標とする。 [1] 話しことば研究を推進するための基礎的な知識と技法を、受講者が自身で獲得していけるようになる。 [2] コミュニケーション研究、音声研究、そして文法研究を含む統合的な研究枠組みを自ら構想できるようにする。											
【授業計画と内容】											
各回の内容は以下のとおりだが、受講者の理解度や議論の展開次第では変更の可能性がある。											
第1回 コミュニケーションの中の日本語の文法 第2回 話しことばと書きことば、場面的なことばと脱場面的なことば 第3回 唯文主義を超えて 第4回 名詞一語発話とその周辺文節発話・節発話 第5回 文節発話・節発話 第6回 自立性の無い接ぎ穂発話 1 第7回 自立性の無い接ぎ穂発話 2 第8回 オノマトペ発話 第9回 感動詞発話 第10回 非流暢性からみたコミュニケーション 1 第11回 非流暢性からみたコミュニケーション 2 第12回 ドリフトイントネーション 第13回 語アクセントとイントネーション 第14回 りきみ 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない
資料は電子的に配布する。

[参考書等]

(参考書)

定延利之(編)『発話の権利』(ひつじ書房, 2020年) ISBN:978-4894769830 (第5回・第7回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションと言語におけるキャラ』(三省堂, 2020年) ISBN:978-4385349121 (第8回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『文節の文法』(大修館書店, 2019年) ISBN:9784469213751 (第2回・第4回・第5回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションへの言語的接近』(ひつじ書房, 2016年) ISBN:978-4894769472 (第7回・第8回の授業内容に最もよく関連する。)

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 山本 武史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語の音声・音韻									
【授業の概要・目的】											
英語の音声・音韻について概説し、特に音節構造、強勢付与、形態論との関わりなどにおいてまだ解決されていない問題や意見が分かれている問題について議論する。テキストを使用するが、授業内容はそれに縛られず、受講生が自身の考えでデータを分析することに重きを置く。											
【到達目標】											
英語の音声・音韻に関する基本的知識を習得し、さまざまな問題を定説にとらわれず自身で解決する力を養う。											
【授業計画と内容】											
以下に各回の内容を当初の予定として示すが、初回の授業で受講者の知識を確認して変更することがある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要の説明 2. English phonetics: Consonants 3. English phonetics: Vowels 4. The phonemic principle and English phonemes 5. English syllable structure (1): Phonotactics 6. English syllable structure (2): Syllabification 7. Rhythm and word stress in English (1): The Latin stress rule 8. Rhythm and word stress in English (2): Remaining problems 9. Rhythm, reversal, and reduction 10. English intonation 11. Graphophonemics: Spelling-pronunciation relations 12. Variation in English accents 13. An outline of some accents of English 14. First language (L1) acquisition of English phonetics and phonology 15. Second language (L2) acquisition of English phonetics and phonology 											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30点）および期末試験（実施が困難な状況においてはレポート）（70点）による。平常点は授業中の議論への活発な参加を評価する。4回以上（4回を含む）欠席した者には単位を与えない。

[教科書]

Carr, Philip 『English Phonetics and Phonology: An Introduction, 3rd edn.』（Wiley-Blackwell）ISBN: 9781119533740

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の予習、復習はもちろんであるが、調音音声学や音韻論に関する基礎的知識が不足している者は各自その補強に努めること。

（その他（オフィスアワー等））

授業時以外の連絡はメール（yamamoto.takeshi.hmt@osaka-u.ac.jp）によること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院言語文化研究科 宮本 陽一 教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		統語論研究									
【授業の概要・目的】											
統語理論のゴールは、人間の持つ言語能力の研究を通して人間の心（mind）を理解することにある。この1つの試みとして生成文法理論がある。本講義では、生成文法理論において広く議論されている英語の疑問文（移動現象）に注目しながら、生成文法理論の考え方を学んでいく。											
【到達目標】											
<p>(1) 生成文法理論の基本的な考え方が理解できるようになる。</p> <p>(2) 疑問文に関する理論発展が理解できるようになる。</p> <p>(3) 樹形図, ブラケット等を用いて言語（特に英語と日本語）の基本的な文の構造が表現できるようになる。</p> <p>(4) 生成文法理論の枠組みにおいて日英語の統語的な違いが理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で講義を進める。但し、講義の進み具合により、多少の変更はあり得る。</p> <p>第1回：オリエンテーションならびに文の構造</p> <p>第2回：平叙文の構造</p> <p>第3回：疑問文の構造</p> <p>第4回：疑問文にかかる制約（基本概念）</p> <p>第5回：疑問文にかかる制約（帰結）</p> <p>第6回：疑問文にかかる制約（問題点）</p> <p>第7回：格</p> <p>第8回：障壁理論（基本概念）</p> <p>第9回：障壁理論（練習）</p> <p>第10回：障壁理論（帰結）</p> <p>第11回：障壁理論（問題点）</p> <p>第12回：相対最小性</p> <p>第13回：ミニマリストプログラム</p> <p>第14回：日英語比較（削除と移動）</p> <p>第15回：日英語比較（数量詞と量化詞）</p>											
【履修要件】											
言語学概論程度の知識があることが望ましい。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

課題（20%）と期末レポート（80%）の成績を総合的に評価する。授業の内容を踏まえ、独創的な視点のもと、必要なデータ収集・分析を行った期末レポートを高く評価する。

[教科書]

使用しない
ハンドアウトを配布する場合もあるが、授業は基本的に板書で進める。

[参考書等]

（参考書）
宮本陽一 『生成文法の展開：「移動現象」を通して』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-288-7

[授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習を必ず行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		日本大学文理学部 教授 井上 優			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		言語の対照研究									
【授業の概要・目的】											
対照研究が「2つの事物を比べて考えることにより、両者の特性を浮かび上がらせ、両者を相対化する(公平に見る)視点を見出す研究」であることを述べ、文法・語彙・コミュニケーションに関する諸現象について井上がおこなった日本語と中国語、日本語と韓国語の対照研究について紹介する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・「対照研究」の基本的な考え方を身につける。 ・「自分」と「自分と違うもの」を公平に見るセンスを身につける。 ・身近な言語現象を注意深く観察し、物事を「しくみ」として捉えるセンスを身につける。 											
【授業計画と内容】											
【8月28日】											
第1回：対照研究とは何か											
第2回：対照研究のタイプ(1) 分析型											
第3回：対照研究のタイプ(2) 統合型											
第4回：対照研究のタイプ(3) 関連づけ型											
第5回：日本語と中国語の語彙 外来語受容法											
【8月29日】											
第6回：日本語と韓国語の文法(1) テンス											
第7回：日本語と韓国語の文法(2) アスペクト											
第8回：日本語と中国語の文法(1) 独立型の文法と協働型の文法											
第9回：日本語と中国語の文法(2) 話し手基準と聞き手基準											
第10回：日本語と中国語の文法(3) 気持ちの言語化											
【8月30日】											
第11回：日本語と中国語のコミュニケーション(1) 「はっきり」と「あいまい」											
第12回：日本語と中国語のコミュニケーション(2) 「会話」と「一言」											
第13回：日本語と中国語のコミュニケーション(3) 「個人」と「役割」											
第14回：日本語と中国語のコミュニケーション(4) お礼の感覚											
第15回：日本語と中国語のコミュニケーション(5) 「親しみ」と「はりあい」											
【履修要件】											
言語学および中国語・韓国語に関する知識は特に必要ない。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への参加状況）（50%）およびレポート（50%）

[教科書]

授業中に資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

井上優 『相席で黙ってられるか 日中言語行動比較論』（岩波書店，2013年）ISBN:978-4-0002-8625-1

生越直樹編 『シリーズ言語科学 4 対照言語学』（東京大学出版会，2002年）ISBN:978-4-1308-4074-3

定延利之編 『日本語学と通言語的研究との対話 テンス・アスペクト・ムード研究を通して』（くろしお出版，2014年）ISBN:978-4-87424-624-5 C3081

廣瀬幸生ほか編 『比較・対照言語研究の新たな展開 三層モデルによる広がりと深まり』（開拓社，2022年）ISBN:978-4-7589-2376-7

[授業外学修（予習・復習）等]

「対照研究」について調べておく。

（その他（オフィスアワー等））

- ・この集中講義は前期の採点報告日以降に実施するため，成績報告が遅れる場合がある。
- ・授業を通して，履修者からの積極的な質問やコメントを歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系25

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Khotanese and Iranian Linguistics									
[授業の概要・目的]											
This course offers an introduction to Old and Middle Iranian languages including Avestan, Old Persian and Khotanese. Along with language and literature, students will learn the scripts for writing Avestan, Old Persian and Khotanese as well. The reading materials include Avestan Yasna, Old Persian inscriptions of King Darius I and Khotanese Vajracchedika. Therefore, this course provides glimpses into development of Iranian languages, early history of Iran as well as early Buddhism.											
[到達目標]											
The participants will learn Avestan, Old Persian and Khotanese scripts, Old and Middle Iranian languages and historical grammar of Iranian linguistics.											
[授業計画と内容]											
Week #01 Introduction: From PIE to Indo-Iranian Week #02 Introduction: Avestan languages and Avesta Week #03 Introduction: Old Persian and Cuneiform Week #04 Khotanese and Buddhist texts Week #05 to #07 Reading: Old Avestan Yasna Week #08 to #10 Reading: Behistun Inscription (Old Persian) Week #11 to #14 Reading: Khotanese Vajracchedika Week #15 Feedback											
[履修要件]											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
[成績評価の方法・観点]											
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam. Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系26

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Tocharian and Indo-European Linguistics									
【授業の概要・目的】											
This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.											
【到達目標】											
The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.											
【授業計画と内容】											
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History</p> <p>Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1</p> <p>Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2</p> <p>Week #04 Script and Manuscripts</p> <p>Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present)</p> <p>Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive)</p> <p>Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite)</p> <p>Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya</p> <p>Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka</p> <p>Week #12 Tocharian A: grammar</p> <p>Week #13 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #14 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #15 Feedback</p>											
【履修要件】											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
【成績評価の方法・観点】											
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam. Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』 (Heidelberg, 2007) (for the Brahmi script)

Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch, Band I Grammatik』 (Heidelberg, 1960)

Georges-Jean Pinault 『Chrestomathie tokharienne. Textes et grammaire』 (Paris, 2008)

(関連URL)

<https://www.univie.ac.at/tocharian>(Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系27

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系28

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 松本 亮			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		シベリア諸言語研究									
[授業の概要・目的]											
ロシアには多数の少数民族、諸言語が話されています。そのうち、日本に地理的にも近く、言語類型論的にも近いとされるシベリアの諸言語について概観し、いくつかの言語について文法・テキスト読解を通して理解していきます。											
[到達目標]											
シベリアに分布する諸言語を外観した後、地域的な言語学・社会言語学的情報を知る。具体的に取り上げる言語を、語彙や辞書、グロスをもとに構造を理解できるようになるとともに、言語学的トピックについて考察できるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1～3回 シベリアの言語状況の概観 第4～8回 エヴェンキ語を取り上げる 第9～13回 ネネツ語を取り上げる 第14～15回 ハンティ語を取り上げる											
[履修要件]											
言語学入門が履修済であることが望ましい またロシア語の知識があるとなお良い(こちらはなくとも良い)											
[成績評価の方法・観点]											
授業中に課す数回の課題(60%)と最終まとめのレポート(40%)で評価する											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
日本語で読めるロシアやシベリアの諸数民族に関する文献は見ておいてください。 また授業で配布する文献を読む、課題を解く時間に当ててください。 受講生が興味を持つ、専攻とする言語との類型論的な比較ができるように各自言語学的トピックに関心を持って調べてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
メールにて受け付けるとともに、連絡が前もってあれば授業の前後の時間を空けることが可能です。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 荻原 裕敏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ソグド語文献から見る文献言語研究									
【授業の概要・目的】											
<p>ソグド語について講義する。ソグド語は中期イラン語に位置づけられ、コータン語やホレズム語などとともに、東イラン語に分類される。残された資料は紀元1~2世紀以降のもので、碑文や貨幣銘の他に、紙及び木簡に書かれた文書が知られており、仏教・マニ教・キリスト教の宗教文献が大部分を占める。ソグド語文献は、主に中国甘肅省の敦煌と新疆ウイグル自治区のトゥルファンから発見されているが、ソグド人が古代内陸アジア交易で重要な役割を果たしていたことから、ソグド研究は中央アジア史研究においても重要な位置を占める。加えて、ソグド人の交易活動を背景とした漢人との接触の結果、ソグド語に見られる漢語からの借用語は、中古漢語の音韻の再建にも利用されてきた。今回の講義では、研究史並びに文法を概観した後、代表的なテキストの講読を通して、出土文献資料を利用した文献言語研究の方法論やその可能性について解説する。</p>											
【到達目標】											
<p>ソグド語の文法を学び、ローマ字転写されたテキストの読解を通して、工具書を利用して自らソグド語のテキストを読むことができるようになるとともに、古代イラン語から現代イラン語に至る言語変化についての概観的な知識を得ることを目指す。また、文字とその背後にある言語体系との関係や文献資料を通じた言語研究の方法論について理解し、文献言語研究に取り組む能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p> <p>1 導入【1週】 研究史、イラン語におけるソグド語の位置づけ及び資料・工具書の紹介</p> <p>2 ソグド語の基礎【6週】 ソグド語を表記する文字:ソグド文字・マニ文字・シリア文字 ソグド語の音韻・文法</p> <p>3 出土文献資料による文献言語研究の方法論【7週】 出土文献資料の扱い方 ソグド語文献講読 出土文献解読による言語体系の解明とその可能性 出土文献資料に反映される文化と文献成立の背景</p> <p>4 フィードバック【1週】 期末レポート フィードバック</p>											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート（70％）・平常点（小レポート）（30％）

【教科書】

ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

（参考書）

Emmerick, Ronald E. and Maria Macuch (eds.) 『The Literature of Pre-Islamic Iran: Companion Volume I to A History of Persian Literature』 (I. B. Tauris, 2009)

Gershevitch, Ilya 『A Grammar of Manichean Sogdian』 (Blackwell, 1954)

Gernot Windfuhr (ed.) 『The Iranian Languages』 (Routledge, 2009)

Gharib, Badresaman 『Sogdian Dictionary: Sogdian-Persian-English (2nd ed.)』 (Farhangian Publications, 2004)

Ruediger Schmitt (ed.) 『Compendium Linguarum Iranicarum』 (Reichert, 1989)

Sims-Williams, Nicholas 『A Dictionary: Christian Sogdian, Syriac and English (2nd ed., rev.)』 (Reichert, 2021)

Sims-Williams, Nicholas and Desmond Durkin-Meisterernst 『Dictionary of Manichaean Sogdian and Bactrian (2nd ed., rev.)』 (Brepols, 2022)

吉田 豊 『ソグド語文法講義』 (臨川書店, 2022年)

その他、授業中に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する参考文献を自主的に学習すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系30

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国語音韻学：中古音について									
【授業の概要・目的】											
中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項（特に中国語学の専門用語、字書、義書等）についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。											
【到達目標】											
中古音の基本的な概念を理解する 中古音の声母・韻母の用語を覚える 中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる 字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する											
【授業計画と内容】											
特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。 第1回－第3回 ガイダンス 音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について 第4回－第6回 切韻系韻書、反切について 第7回－第9回 韻図、方言、漢字音について 第10回 中古音の用語チェック 後半は中古音に関連する事項について紹介する。 第11回－第14回 字書、義書について 第15回 まとめ、フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
議論への積極的な参加（20%） 小テスト（50%） レポート（30%）											
【教科書】											
プリントを配布します。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

（その他（オフィスアワー等））

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪学院大学 情報学部 准教授 笹間 史子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		調音音声学									
【授業の概要・目的】											
世界の言語の大半は音声を媒体としており、音声学の知識は言語記述に欠かせない。一般に音声の記述にはIPA (International Phonetic Alphabet, 国際音声記号) が用いられる。本演習は、実習をとおしてIPAに習熟することを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ IPAの発音を身につける。 ・ 音声を発する際に、音声器官のどこで何が起きているのか内省できるようになる。 ・ IPAを用いて音声表記ができるようになる。 ・ IPAの発音・聞き取りの習得をとおして、さまざまな言語音の記述をおこなうための基礎をつくる。 											
【授業計画と内容】											
音声器官、気流、発声について説明したのち、IPAの発音・聞き取り練習をおこなう。また、受講生に各自の学習言語からの例を持ちよってもらい、その発音・表記について検討する。											
第1回 イントロダクション、音声器官のしくみ											
第2回 気流と発声											
第3回 破裂音											
第4回 鼻音、ふるえ音、はじき音											
第5回 摩擦音											
第6回 摩擦音、小テスト1											
第7回 接近音、その他の子音											
第8回 非肺気流による子音											
第9回 非肺気流による子音、小テスト2											
第10回 子音のまとめ、表記練習											
第11回 第一次基本母音											
第12回 第二次基本母音、その他の母音											
第13回 母音のまとめ、表記練習、小テスト3											
第14回 総復習と発表											
第15回 総復習と発表											
小テストは第6回、第9回、第13回を予定しているが、授業の進み具合により変更する可能性がある。											
【履修要件】											
特に要件は設けないが、言語学概論等の授業で音声学の基礎を学んでいることが望ましい。											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

以下の合計で評価する。

- ・平常点（20点、授業内での発表を含む）
- ・小テスト（3回の聞き取りテスト、各10点）
- ・発音テスト（40点）
- ・レポート（10点）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で学んだ音の発音・表記を確認しておくこと。

授業中にできるようにならなかった発音については各自で練習し、必要に応じて次回以降の授業後に担当者に確認すること。

授業で学んだことにもとづき、自らが学習する言語の音声をあらためて観察するとともに、観察結果を授業に持ち寄ってほしい。

（その他（オフィスアワー等））

実習であるので、休まないこと。

休んだ回の内容については、書籍、CDやネット上の音声などを活用して確認しておくこと。

授業中は他の受講生の発音にもよく耳を傾けること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37										
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授				パリハワダ ナチラ
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語	
題目		「魅力的な日本語」・「難しい日本語」を題材とした日本語学・日本語教育的探究										
【授業の概要・目的】												
日本語学習者の「日本語学習の目的」として「日本語そのものへの興味」が常に上位にランキングされる。その理由は果たして何か。学習者が惹かれる日本語の特徴とは何か。本授業では、日本語・日本文化を主専攻とする日本語・日本文化研修留学生(日研生)と共に、「魅力的な日本語」及び「難しい日本語」の学習項目を選定し、多角的に分析する。日本人学生・日研生を含む混在グループで、誤用分析、用法分析、教科書分析等を行いつつ、日本語の魅力、特徴に迫る。												
【到達目標】												
本授業の到達目標は、 (1) 日本語教育の基礎を学びつつ、選定した学習項目・用法を基にその基礎的応用力を習得することである。 (2) 日本語に対する相対的な見方を形成しつつ、その背景にある社会文化的な諸要素に対する理解力を高めることである。												
【授業計画と内容】												
以下の通りに進めていく予定であるが、履修者の興味や背景に応じて変更する場合もある。												
第1回 ガイダンス、初級日本語学習者の言語行動の疑似体験、テーマ選定・グループ形成												
第2回 日本語学習者の初歩的動機・グループワーク : 選定した学習項目の特徴・初級学習者を惹きつける要因の分析												
第3回 学習ニーズと多様な日本語(やさしい日本語、アカデミック日本語、ビジネス日本語、専門日本語)・グループワーク : 学習ニーズへの配慮												
第4回 コースデザイン・グループワーク : コースにおける位置づけ・到達目標設定												
第5回 教授法とシラバス・グループワーク : 教授法の検討												
第6回 漫画・アニメ・J-Popの日本語・グループワーク : メディアの活用法及び教材化の課題と利点												
第7回 教室活動・グループワーク : 教室活動と教科書分析												
第8回 中間発表会と前半の総括												
第9回 学習困難な日本語 学習を困難にしている理由とは?・グループワーク : テーマ選定・グループ形成及びアウトライン作り												
第10回 自然な日本語と教科書で用いられる日本語の問題点・グループワーク : 典型的な使用場面と状況												
第11回 教科書分析の方法・グループワーク : 教科書分析												
第12回 類推と転移・グループワーク : 他言語との比較												
第13回 誤用分析の方法・グループワーク : 誤用分析												
第14回 アクション・リサーチと教師ビリーフ・グループワーク : 期末発表の準備 グループ別期末発表												
第15回 フィードバック												
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----												

言語学(演習)(2)

[履修要件]

日本語・日本文化研修留学生、文学部、文学研究科の学生専用科目

[成績評価の方法・観点]

以下の通りに評価する。

授業活動への参加度合：30%

中間発表・中間レポート：30%

期末発表・期末レポート：40%

なお、演習科目であるため出席も重視する。

[教科書]

使用しない

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)

白川博之監修 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク)
ISBN:ISBN:ISBN4-88319-201-6

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上)』(ひつじ書房)
ISBN:ISBN:ISBN4-89476-251-X

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(下)』(ひつじ書房)
ISBN: ISBN:ISBN4-89476-252-8

その他適宜授業中に提示する。

[授業外学修(予習・復習)等]

グループ活動を遂行する上で事前準備・授業外の共同学習が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

E-mailアドレス：palihawadana.ruchira.8n@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		個別言語と一般言語理論(1)									
[授業の概要・目的]											
本演習では、個別言語の特定言語現象についての分析がいかに一般言語理論に貢献しうるか、種々の論文(主として英文)に取り組みながら考察する。前期は主に音韻論を取り上げる。											
[到達目標]											
一般言語理論が個別言語の分析にどう役に立つのか理解を深める。											
[授業計画と内容]											
この授業では毎回、学部生と大学院生がペアとなり、割り当てられた資料についてハンドアウトを準備して内容の解説をする。その後、問題となる事項について全員で討議する。なお、今年度は千田俊太郎がすべての授業を担当する。											
第1回 ガイダンス 第2回 アクセントとトーン 第3回 音素 第4回 音節とモーラ 第5回 音節と分節音1 第6回 音節と分節音2 第7回 音節と分節音3 第8回 音韻論における「自然さ」 第9回 音象徴1 第10回 音象徴2 第11回 語と音韻論1 第12回 語と音韻論2 第13回 イントネーション 第14回 総括 第15回 フィードバック (但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)											
[履修要件]											
事前に言語学講義Iを履修しているか、もしくはそれに相当する言語学の初歩的知識を有していることが望ましい。											
----- 言語学(演習) (2)へ続く -----											

言語学(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

授業での発表（40％），討論への積極的な参加（10％），期末レポート（50％）により評価する。

[教科書]

使用しない
プリントあるいはpdfファイルを配布するか、urlを指示する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講者は教科書の担当箇所以外の部分も予め読んで内容を把握して授業に参加することが求められる。担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系34

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		個別言語と一般言語理論(2)									
[授業の概要・目的]											
本演習では、個別言語の特定言語現象についての分析がいかに関一般言語理論に貢献しうるか、種々の論文(主として英文)に取り組みながら考察する。後期は主に統語論を取り上げる。											
[到達目標]											
一般言語理論が個別言語の分析にどう役に立つのか理解を深める。											
[授業計画と内容]											
この授業では毎回、学部生と大学院生がペアとなり、割り当てられた資料についてハンドアウトを準備して内容の解説をする。その後、問題となる事項について全員で討議する。なお、今年度は千田俊太郎がすべての授業を担当する。											
第1回 ガイダンス 第2回 移動動詞 第3回 話法 第4回 語順1 第5回 語順2 第6回 名詞句 第7回 主語 第8回 主語と主題 第9回 抱合 第10回 目的語 第11回 他動詞 第12回 接置詞 第13回 否定 第14回 総括 第15回 フィードバック (但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)											
[履修要件]											
事前に言語学講義Iを履修しているか、もしくはそれに相当する言語学の初歩的知識を有していることが望ましい。											
----- 言語学(演習) (2)へ続く -----											

言語学(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

授業での発表（40％），討論への積極的な参加（10％），期末レポート（50％）により評価する。

[教科書]

使用しない
プリントあるいはpdfファイルを配布するか、urlを指示する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講者は教科書の担当箇所以外の部分も予め読んで内容を把握して授業に参加することが求められる。担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		現象を通して学ぶ言語の広がりとお行き									
[授業の概要・目的]											
この授業は、受講者にさまざまな言語現象の不思議さを体感させ、それによって、言語の広がりとお行きを正しく理解させようとするものである。											
[到達目標]											
言語現象とはどのようなもので、どうすれば発見でき、説明できるのかを、受講者が自身で気づき自身の発見・説明能力を高めていけるようにしたい。											
[授業計画と内容]											
多くの受講者にとって最も身近な言語である現代日本語（共通語）の現象観察を通して、言語学の基礎的な知識と技法を学ぶ。受講者は、提示された具体的なデータについて、現象を見てとり、その不思議さと理解をめぐるディスカッションに積極的に参加し、それをふまえてさらに自分で考えることが要求される。予定されている概要は以下のとおりである。なお今年度は定延利之がすべての授業を担当する。											
第1回：イントロダクション～言語現象とはどのようなものか？											
第2回：合成語のアクセント											
第3回：単純語のアクセント											
第4回：接ぎ木語											
第5回：動静と格形											
第6回：モノと述部形態											
第7回：知識と体験											
第8回：きもちの文法											
第9回：発話の権利 1											
第10回：発話の権利 2：											
第11回：非流暢性の規則性											
第12回：共在とインタラクション											
第13回：キャラ											
第14回：呼びかけ											
第15回：まとめ											
[履修要件]											
特になし											
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----											

言語学(基礎演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

議論への積極的な参加と受け答え(50%)，レポート(50%)の合計による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないようにしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

予約をとってもらえば質問などに応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		言語創造を通して学ぶ言語のしくみ 言語類型論入門									
[授業の概要・目的]											
<p>この授業では、受講者に自分だけの言語をつくってもらう。その作業を通して、人間言語に通底するしくみやそれを分析・記述するための言語学的枠組みを実践的に理解してもらおうというのがこの授業のねらいである。</p> <p>言語を創作するためには、人間言語をどんな観点から見ればよいか、その観点に関して人間言語はどんな選択肢をとりうるかについて知っておく必要がある。この授業ではまず担当講師が、実際の世界の言語のあり方について、特に文法構造に着目していくつかの項目を取り上げ解説する。受講者は解説を聞いて創作する言語について構想を練り、具体的な形式で肉付けして、どんな言語を創り上げたかを中間報告として発表する。言語を創作する際には、どの特徴とどの特徴を組み合わせれば効率的なコミュニケーションが達成可能な言語となるかを考えてもらいたい。実際の言語は、まったく恣意的に諸特徴を組み合わせられて成り立っているのではなく、その構造には一定の傾向が見られる。そうした傾向やその背景にあると考えられる原理について中間報告を聞いたのち担当講師が解説するので、それをふまえて自分の創作言語を改訂し、最終的にレポートにまとめて提出してもらおう。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・人間言語の分析・記述に必要な言語学的枠組みを知識として習得するとともに、それを自分で使いこなす能力を修得する。 ・人間言語に通底する原理について理解し、具体的な言語特徴との関連を考察することができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>授業は3つのパートから成る。第I部では担当講師が文法構造の類型論的基礎知識について講義する。第II部では第I部の内容をふまえ、各受講者が自身の創作した言語について発表する。第III部では受講者がつくった言語を取り上げながら、実際の言語に見られる傾向との相違や、言語構造を形づくる原理について担当講師がコメント・解説する。最終的には、第III部の内容をふまえて第II部で発表した創作言語を改訂し、期末レポートとして提出してもらおう。</p> <p>授業は以下の予定に沿って進めるが、受講者数に応じてスケジュールが変更される可能性があるため、【 】内に示した回数はあくまでも目安である。なお、今年度は大竹昌巳がすべての回を担当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション【第1回】 授業の方針についてガイダンスを行なう。 ・第I部 レクチャー篇【第2回～第7回】 第2回：語順の類型論 第3回：格標示の類型論 第4回：名詞句の類型論 											
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----											

言語学(基礎演習)(2)

- 第5回：動詞句の類型論
第6回：複文の類型論
第7回：その他
- ・第II部 プレゼン篇【第8回～第12回】
毎回2,3名程度の受講者が自身の創作言語について発表する。
 - ・第III部 コメント篇【第13回～第14回】
第13回：解説（前半）
第14回：解説（後半）
 - ・フィードバック【第15回】
フィードバックの内容については授業内で説明する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

発表(40%)、授業内での発言(20%)、期末レポート(40%)に基づき総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
風間伸次郎 山田怜央(編著) 『28言語で読む「星の王子さま」：世界の言語を学ぶための言語学入門』
(東京外国語大学出版会, 2021年) ISBN:978-4-904575-87-1
リンゼイ・J・ウェイリー(著), 大堀壽夫 古賀裕章 山泉実(訳) 『言語類型論入門：言語の普遍性と多様性』 (岩波書店, 2006年) ISBN:9784000227605

(関連URL)

<https://wals.info/>(The World Atlas of Language Structures Online)

【授業外学修(予習・復習)等】

言語を創作するためには細部を肉付けする必要があるため、そのための時間を適宜設ける必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29624 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（初級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語（初級）									
【授業の概要・目的】											
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語は、タンザニアやケニアなど東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。またテキストの会話表現には、衣食住の生活習慣など文化的あるいは社会的な事柄が多く含まれる。その背景について授業中に説明を加えることで、言語だけでなくその地域の文化やものの考え方に関しても知識を深める。関連する実物や画像、映像は授業中に紹介される。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる 3：短い日常会話の流れを把握できる 4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン / スワヒリ語文法の概要 第2回 第1課 / 現在時制 第3回 第2課 / コピユラ文 第4回 第4課 / 所有表現 第5回 第5課 / 未来時制 第6回 名詞クラス 第7回 第3課 / 存在表現 第8回 第1～5課の復習と補足説明 第9回 第6課 / あいさつ表現 第10回 第7課 / 過去時制 第11回 第8課 / 完了時制 第12回 第9課 / 形容詞 第13回 第10課 / 接続形 第14回 第6～10課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く -----											

スワヒリ語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29625 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（中級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語（中級）									
【授業の概要・目的】											
<p>テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその文化的背景についても説明し、関連する実物や画像、映像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化やものの考え方についての知識も深める。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話することができる 3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる 4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクション / 第1～10課の復習 第2回 第11課 / 時間 第3回 第12課 / 指示詞 第4回 第13課 / 使役 第5回 第14課 / 条件節 第6回 関係節 第7回 第15課 / 受身 第8回 第11～15課の復習と補足説明 第9回 第16課 / 相互形 第10回 第17課 / 仮想時制 第11回 第18課 / 複合時制 第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ 第13回 第20課 / 手紙の書き方 第14回 第16～20課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

スワヒリ語（中級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系39

科目ナンバリング		U-LET49 29648 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級A）(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学外国語学部 准教授 杉山 豊			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
【到達目標】											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：文字(1)（第1課相当）</p> <p>第3回：文字(2)（第1課相当）</p> <p>第4回：発音(1)（第2課相当）</p> <p>第5回：発音(2)（第2課相当）</p> <p>第6回：単語の表記(1)（第3課相当）</p> <p>第7回：単語の表記(2)（第3課相当）</p> <p>第8回：単語の発音(1)（第4課相当）</p> <p>第9回：単語の発音(2)（第4課相当）</p> <p>第10回：現在終止形（上称体）（第5課相当）</p> <p>第11回：名詞と助詞（第6課相当）</p> <p>第12回：数詞と助数詞(1)（第7課相当）</p> <p>第13回：数詞と助数詞(2)（第7課相当）</p> <p>第14回：否定と肯定（第8課相当）</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）と学期末試験（70点）。											
----- 朝鮮語（初級A）(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（初級A）(語学)(2)

[教科書]

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系40

科目ナンバリング		U-LET49 29649 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級B）(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学外国語学部 准教授 杉山 豊			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
【到達目標】											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：略待上称体(1)（第9課相当）</p> <p>第3回：略待上称体(2)（第9課相当）</p> <p>第4回：変則用言(1)（第10課相当）</p> <p>第5回：変則用言(2)（第10課相当）</p> <p>第6回：過去終止形（第11課相当）</p> <p>第7回：未来終止形（第12課相当）</p> <p>第8回：敬語形（第13課相当）</p> <p>第9回：命令・勧誘・禁止（第14課相当）</p> <p>第10回：連用形（第15課相当）</p> <p>第11回：連体形（第16課相当）</p> <p>第12回：各種接続語尾（第17課相当）</p> <p>第13回：各種補助用言（第18課相当）</p> <p>第14回：各種補助用言(第18課相当)</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>											
【履修要件】											
前期よりの継続なので、前期に初級を履修しているか、またはそれと同等の学習歴のある者。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）と学期末試験（70点）。											
----- 朝鮮語（初級B）(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（初級B）(語学)(2)

[教科書]

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系41

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 谷口 一美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知構文論									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。											
第1回：ガイダンス 第2回：認知文法（論文1前半） 第3回：認知文法（論文1後半） 第4回：認知文法（論文2前半） 第5回：認知文法（論文2後半） 第6回：構文文法（論文1前半） 第7回：構文文法（論文1後半） 第8回：構文文法（論文2前半） 第9回：構文文法（論文2後半） 第10回：認知文法・構文文法の応用的研究（論文1前半） 第11回：認知文法・構文文法の応用的研究（論文1後半） 第12回：認知文法・構文文法の応用的研究（論文2前半） 第13回：認知文法・構文文法の応用的研究（論文2後半） 第14回：全体の総括とディスカッション 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
認知言語学の基礎知識を備えていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への参加状況（20%）、学期末のレポート（80%）から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 肥後 時尚			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代エジプト語の理解に基づく古代エジプト史研究									
【授業の概要・目的】											
<p>3000年以上にわたり使用された古代エジプト語の文法の基礎を学び、古代エジプトにおける言語と歴史・文化・宗教の相関関係について学ぶ。 また、古代エジプト語の言語的特徴に着目した古代エジプト史研究の手法や研究視点を習得することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なヒエログリフを読み、その意味を独力で調べることができる ・古代エジプト語（Middle Egyptian）の文法の基礎を理解する ・エジプト学の基礎をなす古代エジプト語の特性を理解し、実史料の分析に基づき古代エジプトの歴史・文化を吟味し、考察することができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>古代エジプト語は、紀元前4000年紀から紀元後4世紀まで続く古代エジプト社会において使用された言語の総称である。1822年のシャンポリオンによる古代エジプト語解読の試みから現在にいたるまで、各種の古代エジプト語で記述された文献史料の読解に基づく研究は、古代エジプト史研究の主要なアプローチの1つとなっている。</p> <p>本集中講義では、古代エジプト語の中で最も長い期間にわたり使用された言語である中期エジプト語（Middle Egyptian）の文法の基礎を学び、古代エジプトにおける言語と歴史・文化・宗教の相関関係について学ぶ。そして、同言語で記述された文献史料の分析に基づく基本的な歴史研究の研究視点や研究手法を学び、言語学・歴史学の視点から古代エジプトの歴史・文化理解を深めることを目指す。</p>											
<p>第1回：古代エジプト語・古代エジプト史概説 第2回：古代エジプト語（中期エジプト語）の基礎 第3回：古代エジプト語（中期エジプト語）の基礎 第4回：古代エジプト語（中期エジプト語）の基礎 第5回：古代エジプト史研究の方法論 第6回：古代エジプト史研究の方法論 第7回：古代エジプトの文献史料：自叙伝碑文・王家文書 第8回：古代エジプトの文献史料：物語文学・教訓文学 第9回：古代エジプトの文献史料：葬祭文学 第10回：古代エジプト語の史料にみる埋葬と儀礼 第11回：古代エジプト語の史料にみる冥界の描写とその歴史的変遷 第12回：古代エジプト語の史料にみる思想：死者の審判 第13回：古代エジプト語の史料読解に基づく正義の概念の研究 第14回：古代エジプト語の史料読解に基づく正義の女神の研究 第15回：古代エジプト語の史料読解に基づく正義の女神の研究</p>											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への貢献、練習問題、課題など）70%・期末レポート30%）

[教科書]

授業中に指示する
講師が用意する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

言語の予習・復習となる練習問題や課題が課される場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

メールで対応する。
連絡先は授業初回前にKULASISにて履修者に伝達する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学人文学研究科 教授 米田 信子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		バントゥ諸語概説									
【授業の概要・目的】											
<p>バントゥ諸語はアフリカ4大語族のひとつであるニジェール・コンゴ大語族に属する言語群で、アフリカ大陸赤道以南に広く分布する。この講義では、バントゥ諸語研究で注目されているテーマを取り上げながら、バントゥ諸語に見られる言語現象を考察する。それらの言語現象を個別言語(群)の現象として理解するだけでなく、現象間の相関関係を検討し、類型論や対照研究に発展させることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>バントゥ諸語に共通する文法特徴を理解し、説明することができる。 バントゥ諸語に見られるバリエーションを理解し、説明することができる。 現象間の相関関係を検討することができる。 バントゥ諸語に見られる現象を類型論や対照研究に発展させることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいに応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 バントゥ諸語とは 第2回 名詞クラス 第3回 動詞1 第4回 動詞2 第5回 動詞3 第6回 声調1 第7回 声調2 第8回 名詞修飾節1 第9回 名詞修飾節2 第10回 情報構造1 第11回 情報構造2 第12回 情報構造3 第13回 場所格1 第14回 場所格2 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

小レポート：20点×2回、最終レポート：60点

レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

なお、4回以上授業を欠席した場合は単位を認めない。また授業中の(起きていようとする努力が見られない)居眠りや授業以外の作業をしている場合は「出席」とはみなさない。

[教科書]

授業中に資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)

Mark Van de Velde et al. (eds) 『The Bantu Languages (2nd edition)』 (Routledge, 2019) ISBN:978-1-138-79967-7

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示した論文を必ず読んだ上で授業に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		モンゴル語族史概論									
【授業の概要・目的】											
<p>モンゴル民族は13～14世紀にユーラシアの東西にまたがる世界帝国を築き上げたことで名高く、日本とのつながり言えば、元寇がよく知られている。近年であれば、大相撲の力士を輩出する民族というイメージが真っ先に思い浮かぶ人も多いだろう。ところが、同じ東アジアにあって、しかも時には日本語とともに「アルタイ系言語」という同一の言語グループにくくられるにもかかわらず、彼らの言語であるモンゴル語については一般にほとんど知られておらず、言語学界でも同じ「アルタイ系言語」のトルコ語と比べると認知度には相当の差が感じられる。モンゴル語の敷居を上げている要因の一つには、正書法にラテン文字を採用していないことがあるように思われる。</p> <p>本講義では、現在でも使用されるモンゴル文語を含め、モンゴル語を記録した種々の文字文献について概観するとともに、モンゴル語を含むモンゴル系諸言語を通時的観点から概観する。文献としては13～14世紀の中期モンゴル語文献を主に扱い、言語的側面としては主に音韻の変化に注目する。また、言語史の方法としては文献を用いた方法以外にも、現代諸語・諸方言のデータを用いた比較方法による研究があり、文献による言語研究と相互補完的な役割を果たす。講義ではそうしたデータも用いて、言語史の方法と課題について検討する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル語史研究に必要な基本的知識を習得する。 ・各種文字文献によって何を明らかにすることができ、どのような資料上の限界があるかを理解する。 ・言語変化のパターンや条件・要因について、モンゴル諸語における事例から帰納的に理解する。 											
【授業計画と内容】											
以下の予定で講義を進める。ただし、講義の進捗度や受講者の興味に応じて変更の可能性はある。											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 現代モンゴル諸語概観</p> <p>第3回 モンゴル文語概観</p> <p>第4回 中期モンゴル語文献概観(1)：ウイグル字文献</p> <p>第5回 中期モンゴル語文献概観(2)：パスパ字文献</p> <p>第6回 中期モンゴル語文献概観(3)：漢字文献</p> <p>第7回 中期モンゴル語文献概観(4)：アラビア字文献その他</p> <p>第8回 音韻史概観(1)：子音編</p> <p>第9回 音韻史概観(2)：母音編</p> <p>第10回 音韻史概観(3)：音節編</p> <p>第11回 文法史概観</p> <p>第12回 現代諸語による音韻史研究(1)</p> <p>第13回 現代諸語による音韻史研究(2)</p> <p>第14回 アルタイ語族説について：テュルク諸語・トゥングース諸語との関係</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回の小レポート（40点）と期末レポート（60点）に基づき総合的に評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

Juha Janhunen (ed.) 『The Mongolic Languages』 (Routledge, 2003)

斎藤純男 『中期モンゴル語の文字と音声』 (松香堂書店, 2003)

Nicholas Poppe 『Introduction to Mongolian Comparative Studies』 (Suomalais-Ugrilainen Seura, 1955)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業内では時間に限りがあるので、取り上げる文献について細部まで立ち入って論じることはできない。授業で紹介された文献について、自分なりにあれこれ考えてみる時間を各自設けること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		契丹語研究序説									
【授業の概要・目的】											
<p>10～12世紀のユーラシア東方世界において、マンチュリア・モンゴリア・華北にまたがる大帝国を築いたモンゴル系遊牧民族の契丹人は、新たな文字体系を創出して自らの言語を書き残した。20世紀前半に再発見されて以来、長らく未解読の文字・言語とされてきたこの契丹文字・契丹語は、近年、急速に解読が進んでいる。</p> <p>本講義では、近年の解読成果をふまえ、契丹文字・契丹語がどのような文字体系・言語体系であるのかを論じる。主な対象は2種類の契丹文字のうちの契丹小字とし、どのような文献があるのか、どのような文字体系なのか、それによって書き表わされる契丹語はモンゴル諸語とどのような関係にあるのか、どのような文法的特徴をもつのかについて概説するとともに、実際に文献を読む機会を設け、具体的な解読事例の紹介も行なう。それらを通じて、契丹語資料を実践的に扱う能力・知識を習得するとともに、契丹語解読の現在の到達点を知り、ひいては文献上の言語を研究する方法や課題についての理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・契丹文字契丹語文献の読解に必要な基本的事項を理解し、契丹語資料を扱うための実践的能力を養う。 ・契丹文字契丹語の解読が現在どこまで進んでおり、どのような点が未解読であるかを理解する。 ・契丹語文献の解読事例から帰納的に文献言語研究の方法や課題を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン(1)：契丹国(遼朝)の社会と文化</p> <p>第2回 インTRODクシヨン(2)：契丹大字と契丹小字</p> <p>第3回 契丹小字文献概観</p> <p>第4回 契丹小字の文字体系</p> <p>第5回 蒙契比較言語学(1)：子音編</p> <p>第6回 蒙契比較言語学(2)：母音編</p> <p>第7回 契漢対訳碑文『郎君行記』を読む</p> <p>第8回 契丹語文法摘要(1)：名詞の性と数</p> <p>第9回 契丹語文法摘要(2)：名詞の格</p> <p>第10回 契丹語文法摘要(3)：形容詞</p> <p>第11回 契丹語文法摘要(4)：動詞</p> <p>第12回 契丹語解読事例(1)：語彙的意味の解読</p> <p>第13回 契丹語解読事例(2)：文法的機能の解読</p> <p>第14回 契丹語文献を読む</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回の小レポート（40点）と期末レポート（60点）に基づき総合的に評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業内では時間に限りがあるので、取り上げる文献について細部まで立ち入って論じることはできない。授業で紹介された文献について、自分なりにあれこれ考えてみる時間を各自設けること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系46

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 守田 貴弘			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		動詞意味論									
[授業の概要・目的]											
現代言語学の論文(日本語または英語)を読むことで言語学の議論の方法を学び、自身の研究に反映させることを目的とする。本年度のテーマは動詞の語彙意味論にかかわる分野として、心理動詞、移動動詞、状態変化動詞など、一定の事象に関する論文を扱う。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語学の専門的な文献を読みこなすことができるようになる。 ・ 言語学で研究テーマとなる題材の一端を理解できる。 ・ 自身の興味のある対象について、言語学的方法でレポート・論文が作成できるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：導入の講義，担当割り当て</p> <p>第2回-第14回：ジャーナルや論文集から本授業の目的に沿った論文を選んで輪読する。</p> <p>第15回：フィードバック。</p> <p>扱う文献の詳細は初回授業において、履修者のニーズに応じて最終的に決定する。短めかつそれほど難解ではない論文を1-2回で扱う。</p>											
[履修要件]											
全共科目「言語科学I」「言語科学II」、総人科目「言語科学ゼミナールI」等を履修済であるか、独習によって言語学一般についての基礎的知識を有していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
担当回の報告内容(70%)や授業全般への積極的な参加(30%)を評価する。											
[教科書]											
取り上げる文献をファイル配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献ごとに担当者を決定するのでしっかり準備をして報告をすること。 ・ 担当となっていない文献についても読んでおき、授業中の議論に参加できるよう努めること。 ・ ただ内容を理解するだけでなく、それに対する批判的議論ができるように心がける。 											
(その他(オフィスアワー等))											
PandAの「お知らせ」を受信・確認できるようにしておいてください。文献や発表資料はPandAで共有します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系47

科目ナンバリング		U-LET30 27302 LJ45									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		社会学概論I									
[授業の概要・目的]											
R. コリンズ(『ランドル・コリンズが語る社会学の歴史』)の整理に従って社会学の主要な理論的伝統を4つに分け、それぞれについて基本的な考え方を紹介し、それらの成立過程、異同や相互関係について概説する。その上で現代の社会学理論の状況について解説する。											
[到達目標]											
学問としての社会学の性格について学び、社会学の代表的な基礎理論についてそれぞれのアプローチの特徴を理解する。											
[授業計画と内容]											
基本的に以下の順で講義を進める。ただし講義の進み具合によって各テーマの回数は変動する可能性がある。											
第1回 社会学とは何か 第2回 社会学の歴史 第3回～5回 機能主義的伝統 第6回～7回 コンフリクト理論的伝統 第8回～10回 ミクロ相互作用論的伝統 第11回～12回 功利主義的伝統 第13回～14回 理論的総合の試み 《期末試験》 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
定期試験による。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習は特に必要ないが、授業中に紹介する社会学者の著作を各自の関心に応じて読んでほしい。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系48

科目ナンバリング		U-LET30 27304 LJ45									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		社会学概論 II									
【授業の概要・目的】											
現代世界で生起している諸現象を特徴付けるいくつかの重要なキーワードをとりあげ、前期で習得した社会的な視点(社会学的方法論)を活用してどのようにしてその現象を認識し、どのようにしてその現象の背後にある(見えない)構造的な仕組みを理解することができるのかを明らかにする。											
【到達目標】											
現代世界で起きているさまざまな現象を表層的にとらえるのではなく、その現象が根ざしている、あるいはその現象をつくりだしているより深層の構造を批判的にとらえる社会的想像力を身につけることが出来る。											
【授業計画と内容】											
第1回 社会変動論と現代社会論 第2回 近代化論 第3回 大衆消費社会論 第4回 後期近代とモダニティ論 第5回 階級闘争と社会革命 第6回 社会階層と社会的地位 第7回 中間試験 第8回 社会移動と学歴 第9回 社会学方法論 第10回 科学と知識の社会学 第11回 年齢・時代・コーホートと社会変動論 第12回 家族とジェンダー 第13回 政治と福祉の社会学 第14回 社会学はどう役立つか 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点 20%、試験 80%											
----- 系共通科目(社会学) (講義) (2)へ続く -----											

系共通科目(社会学) (講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中指示した基本文献を読むこと

(その他(オフィスアワー等))

* オフィスアワーの詳細についてはKULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系49

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45										
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 社会学部 准教授				松谷 実のり
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		社会調査入門 (社会調査士科目A)										
【授業の概要・目的】												
<p>本講義では、社会調査の目的や意義、分類、方法と調査の具体例に関する基本的事項を学ぶ。量的調査と質的調査の違いを理解した上で、調査方法それぞれの特徴や実施上の注意点を理解する。社会調査のプロセスを把握し、社会調査の結果を読むため、および社会調査を自ら実施するための基礎的な技術を身につけることを目的とする。なお、この科目は社会調査士資格認定科目【A】に相当する。</p>												
【到達目標】												
<p>社会調査の目的と意義、歴史を理解する。社会調査の種類とその違いを理解し、目的に合わせて使い分けられるようになる。社会調査のプロセスに関する基本的事項を理解する。</p>												
【授業計画と内容】												
<ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査の目的と意義 2.社会調査の歴史 3.社会調査の種類 4.社会調査の方法と設計 5.調査倫理 6.仮説と測定 7.全数調査と標本調査 8.既存統計の利用 9.質問紙調査の事例1 10.質問紙調査の事例2 11.質的調査の信頼性と代表性 12.ドキュメント分析の事例 13.参与観察の事例 14.インタビュー調査の事例 15.エスノメソドロジーの事例 												
【履修要件】												
特になし												
【成績評価の方法・観点】												
レポート												
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----												

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げるいずれかの方法により、自分で調査を設計して実施する。

(その他(オフィスアワー等))

他の社会調査土科目も受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		産業と労働社会学									
【授業の概要・目的】											
<p>産業と労働は、社会や経済の中で重要な役割を担っている。先進国において、18世紀から20世紀にかけて資本主義と製造業が大きな成長をとげ、現在は国際化とサービス産業が拡大され、さらに労働市場と雇用システムに様々な変化が起こっている。労働はモノやサービスを生産する経済的役割を果たしていると思われがちだが、社会的にはそれだけとは言えない。産業と労働は政治、市場、教育、社会階層などにも影響を与える。</p> <p>本授業では、「経済社会学」の観点から、労働と産業の経済・社会・政治的役割を考察する。日本の労働市場と雇用システム、欧州連合と労働問題、自動車産業の労働市場形成、サービス産業と就業形態の多様化、賃労働と福祉レジームの変化、などのケーススタディにおいて、産業と労働の社会的形成とその役割を学ぶことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
本授業では、様々な事例を取り上げ、ディスカッションを交えながら産業・労働社会学の基本的な知識が得られる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 産業と労働社会学のアプローチ</p> <p>第2回 雇用システムと労使関係</p> <p>第3回 企業内労働市場の形成</p> <p>第4回 日本型雇用システム</p> <p>第5回 日本労働市場の形成</p> <p>第6回 日本労働市場の変容</p> <p>第7回 賃金格差と社会階層の変化</p> <p>第8回 サービス産業の展開と就業形態の多様化</p> <p>第9回 賃労働と福祉レジームの形成・課題</p> <p>第10回 失業と非正規雇用の国際比較</p> <p>第11回 欧州連合単一市場の形成と労働問題</p> <p>第12回 フランスの雇用システム・賃金・労使関係</p> <p>第13回 自動車産業と労働市場の国際比較</p> <p>第14回 授業のまとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
<p>受講生の関心により内容を変更することもある。</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる(100%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

講義で使用する説明資料は事前に配布します。授業までに読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系51

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 岸 政彦			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		質的調査の方法論									
【授業の概要・目的】											
<p>「他者の合理性」という概念をキーワードにして、質的調査の方法論上の問題について概説する。まずは古典的なエスノグラフィであるポール・ウィリスの『ハマータウンの野郎ども』を取り上げ、「理にかなった行為」がどのようにして歴史と社会構造に規定され、またそれらを規定していくかについて述べる。次に、より最近のエスノグラフィである丸山里美、石岡丈昇、上間陽子、打越正行らの作品を取り上げ、かれらがどのようにして他者の行為の「理由」を記述しているかを解説する。そして私自身の調査の経験から、「人の語りを聞くこと」とはどのようなことかについて考える。最後にマックス・ウェーバーの「理解社会学」に立ち戻りながら、「他者の合理性」を記述するとはどのようなことかについて述べる。他にも、聞き取り調査や参与観察を実践する場合の、方法論的・倫理的・政治的問題にも触れたい。これらの議論を通じて質的調査の方法論上の可能性と課題についての理解を深めることがこの講義の目的である。</p>											
【到達目標】											
この授業を通して、科学的方法としての質的調査の歴史、理論、方法、実践について総合的・体系的に学ぶ。あわせて倫理的問題についても議論を深める。											
【授業計画と内容】											
<p>1 導入 質的調査は何をするのか 2 一般化という問題 普遍性と固有性のあいだで 3 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(1) 4 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(2) 5 「理由のある行為」とは何か(1) ウィリスとブルデュー 6 主体的なものと状況的なもの 丸山里美 7 身体と意味 石岡丈昇 8 「裸足」とは何か 上間陽子 9 男であること社会学 打越正行 10 語りのなかに引きずり込まれる 岸政彦(1) 11 語り手から名前を呼ばれる 岸政彦(2) 12 聞くという経験を書く 岸政彦(3) 13 「理由のある行為」とは何か(2) ウェーバー 14 方法/倫理/政治 15 まとめ 質的調査は何をすればよいのか</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート70%、平常点30%

[教科書]

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』（2016）
ISBN:978-4-641-15037-9

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学社会学部 准教授 溝口 佑爾			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		基本的な統計資料とデータの分析 (社会調査士科目C)									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、社会調査や官庁統計から得られるデータを分析する際に必要となる基礎的な統計学の知識(記述統計)を教えます。データの種類とそれぞれの特徴について簡単に解説した後、1変数の情報を記述する方法(度数分布表、代表値、散布度の指標、ジニ係数、箱ひげ図など)、2変数間の関係を分析する方法(クロス集計表、相関係数、回帰分析など)を解説していきます。なお、本講義は社会調査士科目Cに対応する科目です。</p>											
【到達目標】											
<p>本講義の到達目標は以下の4つです。</p> <p>a. データの種類とその特徴について理解する</p> <p>b. 1変数の情報を適切に記述する方法を理解する(度数分布表、代表値、散布度の指標など)</p> <p>c. 2変数の関係を適切に分析する方法を理解する(クロス集計表、相関係数など)</p> <p>d. a~cを通して、統計分析を含んだ情報(マスメディア・専門論文)を適切に評価できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のような授業内容が組みられています。ただし、受講生のスキルや理解度に応じて、順番や回数を変えることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> なぜ統計学を学ぶのか?: 社会調査と統計分析、市民的教養としての統計学 量的調査法の基本発想: データの縮減、量的調査と統計学の関係 データの縮約I: 度数分布、ヒストグラム データの縮約II: 平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、四分位偏差 分布を比較する: 標準化、偏差値、ジニ係数、箱ひげ図 量的調査の方法: 調査票とデータセットの作成 既存の統計資料の活用: 収集方法と読み方 データの種類: 数量データ、カテゴリカルデータ、順序カテゴリカルデータ 2つの変数の関係を分析するI: 二重クロス集計表、オッズ比、ファイ係数、クラマーのV 2つの変数の関係を分析するII: 散布図、相関係数、ピアソンの積率相関係数 2つの変数の関係を分析するIII: 単回帰分析 2変数の関係を分析するIV: 変数間の関連の意味、相関関係と因果関係 擬似相関と変数の統制I: 疑似相関、変数の統制、三重クロス集計表、偏相関係数 擬似相関と変数の統制II: 因果推論、実験とリサーチデザイン より高度な統計分析のために: 推測統計学、多変量解析 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中に出す課題（45点 = 15点 × 3回）と期末レポート（55点）で成績を評価します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

盛山和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056

谷合廣紀 『Pythonで理解する統計解析の基礎』（技術評論社）ISBN:978-4297100490

中室牧子・津川友介 『「原因と結果」の経済学』（ダイヤモンド社）ISBN:978-4478039472

[授業外学修（予習・復習）等]

・ Google Colaboratoryを用いた演習を計画しています。Googleアカウントをお持ちでない方は、授業開始前に作成してください。

・ ノートパソコンやタブレットなどの情報機器にある程度慣れていることを前提とします。

・ 授業時には、インターネットに接続できるご自身のPC（またはPCに準じる機器）をご持参ください。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はy.mizo@kansai-u.ac.jpまで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系53

科目ナンバリング		U-LET30 37346 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（演習I） Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会学の基礎理論I									
【授業の概要・目的】											
<p>社会学の初学者にとって最も基本的な学習対象である社会学の基礎概念・基礎理論を理解するため、何冊かのテキスト（主要な社会学者の著作の抜粋を含む）を輪読する。毎回報告者はテキストの該当箇所の要約と用語解説等を記載したレジュメを作成し、それにもとづいて報告する。その後全員で報告内容について質疑応答を行う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> 社会学の研究において広く用いられている基礎概念・基礎理論についての知識を習得し、社会的なものを見方を身につける。 現代の主要な社会学理論について、それぞれのアプローチの特徴や現代的意義について理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回～第5回 社会学の古典理論 第6回～第14回 現代社会学の主要理論 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（報告レジュメとコメント・質問）50%、レポート50%により評価する。											
【教科書】											
<p>奥村隆 『社会学の歴史I』（有斐閣）ISBN:978-4-641-22039-3（京大生協の教科書コーナーで購入できる。） 新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』（有斐閣）ISBN:4-641-12302-0（コピーを配布する。）</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） 友枝敏雄ほか（編）『社会学の力：最重要概念・命題集〔改訂版〕』（有斐閣、2023）ISBN:978-4-641-17481-8（京大生協の教科書コーナーで購入できる。）</p>											
----- 社会学（演習I）(2)へ続く -----											

社会学（演習I）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

報告者以外の受講者も、テキストを読んだ上で短い質問・コメントを書いてこななければならない。報告者はテキストの要約のほかに、テキストを理解する上で必要な用語等に関する解説もレジュメに記載するため、十分な余裕をもって報告の準備に取り組んでほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系54

科目ナンバリング		U-LET30 37361 PJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(実習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		社会調査の実際 (社会調査士科目G)									
【授業の概要・目的】											
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひとつおりの体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。											
【到達目標】											
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 調査の企画 3仮説構成 4 調査項目の設定 5質問文・調査票の作成 6 プリテストと調査票の修正 7 対象者・地域の選定 8サンプリング 9 調査の実施 (調査票の配布・回収、面接) 10 エディティング 11 集計、分析 12 データの視覚化 13 仮説検証 14 報告書の作成 15フィードバック <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 データの入力・読み込み 3 単純集計表、ヒストグラムの作成 4 変数の操作の基礎 5変数の操作の応用 6 クロス集計表、帯グラフの基礎 7 クロス集計表、帯グラフの応用 8 散布図、箱ヒゲ図の作成 9 データセットの分割・結合 10 独立性の検定 11平均値の差の検定 12 多重クロス表分析 											
----- 社会学(実習)(2)へ続く -----											

社会学(実習)(2)

13 回帰分析の基礎
14 回帰分析の応用
15 フィードバック

【履修要件】

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

【成績評価の方法・観点】

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社) ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』(有斐閣) ISBN:978-4641183056

【授業外学修(予習・復習)等】

復習重視。宿題が頻繁に出る。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系55

科目ナンバリング		U-LET30 37346 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（演習I） Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 岸 政彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会学の実践									
[授業の概要・目的]											
この演習では、それぞれの問題関心に沿った研究テーマを各自が選択し、実際の調査研究を経て卒業論文を完成させるための「社会学的方法」を学ぶ。先行研究を渉猟し、理論枠組みと分析概念を彫琢し、蓄積したデータを分析して、「論文」にまで仕上げていくプロセスを実際に体験することがこの演習の目的となる。											
[到達目標]											
以下のような力を養うことが目標である。 ・社会に対する自らの問題関心を深め、研究テーマを具体化する力 ・必要な文献を検索し収集する力 ・データを集め、問題に対して実証的にアプローチする力											
[授業計画と内容]											
第1回 導入 授業の目的を説明しこれまでの卒業論文を紹介する。 第2・3回 各自の関心について短い発表を行い、基本文献を提示する。 第4～15回 先行研究を読解し内容を紹介するとともに、それを踏まえた自分の調査・研究計画を発表する											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
レポート50%、平常点50%											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
指示された基本文献を精読し発表準備を行う。 発表についてなされたコメントを踏まえてレポート作成の準備を行う。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系56

科目ナンバリング		U-LET30 37346 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（演習I） Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 丸山 里美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会学的研究の基礎									
[授業の概要・目的]											
各自の関心に応じて研究課題を選び、3・4回生の二年間をかけてその課題についての社会学的探求を深め、卒業論文を完成させるための基礎をつくりあげることが本授業の目的である。受講生は各自の研究テーマを自ら見つけ、それに関連する基本文献を調べて精読する。それらを整理・要約して、特定の分野の到達点と課題を記述し、自身が取り組む問いを設定する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・各自が卒業論文において探求しようとする研究課題を見つける。 ・各自の関心に関連する社会学的先行研究についての基本的・基礎的知識を習得する。 ・先行研究の整理とまとめ方を習得する。 											
[授業計画と内容]											
第1回 導入、授業目的の説明 第2回 文献検索の仕方、文献のまとめ方 第3～6回 過去の卒業論文の輪読 第7～8回 各自の関心について発表を行い、基本文献を提示する 第9～15回 基本文献を読解し内容を紹介するとともに、それを踏まえた自分の研究計画を発表する											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（授業内での発言・発表）50%、期末レポート（50%）。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
各自関心のある研究テーマについて、文献を探して読み、研究の構想を練る。発表についてなされたコメントを踏まえてレポート作成を行う。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 教授 筒井 淳也			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代社会と家族変動：「生涯学」の観点から									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、家族や生涯（人生、ライフコース）をめぐる変化を、より広い文脈や多様な視角から学ぶ。私たちが経験する家族や人生は、人口学的特性が異なる時代で経験されたものとは全く異なっている。たとえば平均寿命が60歳前後である時代では、現在のように長い高齢期は存在しなかった。しかし100歳以上人口が8万人を超えた今では、「人生100年」を見据えることは決しておかしいことではない。</p> <p>家族や生涯はまた、時代や社会ごとの経済的環境や制度的環境によっても異なって経験される。たとえば一部の東アジア社会では、欧米の女性が一時期経験した主婦化が経験されていない。講義では、時代観・地域観比較の観点から、こういった多様性について論じる。</p> <p>また、社会学の近隣分野（心理学や人類学など）が生涯に対してどうアプローチしているのかについても紹介し、家族と生涯に対する複合的な見方を説明する。</p>											
【到達目標】											
<p>家族と生涯（人生、ライフコース）について、社会的見方を軸にしつつ、複合的な観点から理解できるようになること。特に時代や地域ごとの多様性を踏まえつつ、人口学的特性や制度の概念を用いて、できるかぎり一貫した理論枠組みから家族と生涯を理解することを目指す。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回家族と近代化の基本理論1：家経済から雇用へ 第2回家族と近代化の基本理論2：結婚の変化 第3回家族と近代化の基本理論3：東アジアの「近代化」 第4回家族の概念と法制度1：結婚 第5回家族の概念と法制度2：親子関係 第6回生涯学1：老いは衰退か？老年学と行動科学 第7回生涯学2：幼年期の経験はその後の人生に影響するか？ 第8回生涯学3：人々の「生涯観」の実態 第9回人口学的変化とライフコース変動1：高齢期経験の変化 第10回人口学的変化とライフコース変動2：女性のライフコースの変化 第11回日本の家族と仕事1：福祉レジーム論 第12回日本の家族と仕事2：日本的雇用と日本社会システム 第13回日本の家族と仕事3：家族主義の多様性 第14回現代社会と家族のこれから <<期末レポート>> 第15回 フィードバック</p>											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点30点（授業への積極的参加）、期末レポート70点。期末レポートは、授業内容を理解していることを踏まえ、テーマを各自設定し、到達目標度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

筒井淳也・前田泰樹 『社会学入門』（有斐閣）

筒井淳也 『結婚と家族のこれから』（光文社新書）

筒井淳也 『仕事と家族』（中公新書）

【授業外学修（予習・復習）等】

参考書や授業内で指示する文献の関連箇所を適宜読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

質問・相談などあれば、講師のメールアドレスまで。連絡先は授業中に知らせる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 教授 筒井 淳也			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		家族社会学：理論と実証									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、社会学の一分野である家族社会学について、理論と実証の両方の観点から体系的に説明する。</p> <p>家族社会学は、近代化論を軸とした基礎的な理論枠組み（たとえば直系家族制から夫婦家族制への移行）を持ちつつも、その実態の多様性から、常に理論研究と実証研究が絡み合いながら発展してきた分野である。本講義では、主に計量社会学の研究を参照しつつ、家族の変化や多様性について説明する際に必要な実証研究における概念や調査のあり方について説明する。</p>											
【到達目標】											
<p>家族を説明するための基礎的な理論枠組み、概念、実証における測定手法などを体系的に説明できるようになる。それをもとに、家族社会学の実証研究を読み解き、現代家族のあり方について深い見方を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 家族の実証研究の特性：質的・量的調査</p> <p>第2回 記述と分析：標準的な分析手法</p> <p>第3回 人口学と社会調査</p> <p>第4回 社会統計の基礎単位としての世帯</p> <p>第5回 家族の変化と社会構造</p> <p>第6回 結婚の理論と実証1：配偶者選択と同類婚</p> <p>第7回 結婚の理論と実証2：結婚タイミング、幸福度</p> <p>第8回 親子関係の理論と実証1：「系」の概念と測定</p> <p>第9回 第9回 親子関係の理論と実証2：成人親子関係</p> <p>第10回 家族とネットワーク</p> <p>第11回 多様な絆：事実婚、同棲、同性婚の実態把握</p> <p>第12回 無償労働：家事分担の実証</p> <p>第13回 家族・ケア労働・生活保障</p> <p>第14回 家族のこれからを考える</p> <p><<期末レポート>></p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点30点（授業への積極的参加）、期末レポート70点。期末レポートは、授業内容を理解していることを踏まえ、テーマを各自設定し、到達目標度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

筒井淳也 『結婚と家族のこれから』（光文社新書）

筒井淳也 『仕事と家族』（中公新書）

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書や授業内で指示する文献の関連箇所を適宜読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

質問・相談などあれば、講師のメールアドレスまで連絡してください。（連絡先は授業内でお知らせします。）

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 埴淵 知哉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理的なデータの収集と分析									
【授業の概要・目的】											
<p>地域で起こる多様な現象の特徴を把握するためには、さまざまな種類の調査法を利用する必要がある。同様に、収集したデータの分析にも多くの方法が存在する。本講義ではとくに量的データに注目し、統計的・系統的な地域調査法に関する基礎的な概念・理論を紹介するとともに、調査の困難化やデジタル化といった現代的課題についても検討する。具体的なトピックとしては、国勢調査や標本調査、インターネット調査、デジタルデータなどが含まれる。また、地理的なデータの分析方法についても可能な限り本授業の中で取り上げ、簡単な実習を含めて、地域を俯瞰的にみる方法を広く議論することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・統計的・系統的なデータの収集・分析・表現に関する基礎的な知識とスキルを身につけることができる。 ・様々な地域調査法の長所と短所を理解し、課題に対して適切な方法を選択できる能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：講義概要の説明 第2回：人文地理学におけるデータ収集の方法 第3回：国勢調査の利点と欠点 第4-6回：国勢調査データによる地域特性の把握（データ入手と分析） 第7回：標本調査の利点と欠点 第8回：インターネット調査の可能性と限界 第9回：公開データと二次分析 第10-12回：標本調査データによる意識・行動の把握（データ入手と分析） 第13回：系統的社會観察の可能性と限界 第14回：デジタルデータの可能性と限界 第15回：フィードバック</p> <p>履修者数や進捗状況に応じて内容を変更・調整することがあります。 講義に加えて実際にデータを扱う実習を組み込む予定です。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 地理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

地理学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(20点)、作業課題(30点)、レポート(50点)

・5回以上欠席した場合には単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

埴淵知哉・村中亮夫編 『地域と統計: 調査困難時代のインターネット調査』(ナカニシヤ出版、2018年) ISBN:4779513405

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献をもとに予習・復習すること。授業時間内で終わらなかった作業課題については授業時間外に完了させること。

(その他(オフィスアワー等))

質問は授業中、授業後およびメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 埴淵 知哉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地図を通してみる都市の諸相									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、都市で生じるさまざまな現象や問題を観察・表現する方法として地図に注目し、地図を通して都市の諸相を理解することを試みる。取り上げる地図はデータマップ、メンタルマップ、デジタルマップなどである。データマップは都市における諸現象の地理的な広がりを可視化し、各地域の特徴や問題を浮き彫りにする。メンタルマップは頭の中にある空間的なイメージを表すもので、私たちが世界や都市をどうとらえているのかを知る手がかりを与えてくれる。またGISやデジタルデータの広がりによって新しいデジタルマップが生み出される一方で、場所の経験を重視して街の特徴を描くユニークな地図帳も登場している。本講義では、こういった様々な種類の地図について学ぶとともに、それによって都市を多面的にとらえることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な地図表現の特徴および長所・短所を説明できるようになる。 ・ 現代都市の諸問題に対して地図を通してアプローチする能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：講義概要の説明 第2回：データマップで描く都市 第3回：都市の歩行環境 第4回：都市の食環境 第5回：都市の社会経済的状況 第6回：都市の社会環境 第7回：地図による推論 第8回：メンタルマップで描く都市 第9回：都市のイメージ 第10回：デジタル地図と方向感覚 第11回：地図の歴史とGIS 第12回：位置情報ビッグデータ 第13回：地域らしさを描く地図帳 第14回：五感と想像力で描く地図 第15回：フィードバック</p> <p>履修者数や進捗状況に応じて内容を変更・調整することがあります。 講義に加えて実際に地図を制作する実習を組み込む予定です。</p>											
----- 地理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

地理学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点(20点)、作業課題(30点)、レポート(50点)

・5回以上欠席した場合には単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

マイケル・ボンド 『失われゆく我々の内なる地図 空間認知の隠れた役割』(白揚社、2022年)
ISBN:4826902379

若林芳樹 『地図の進化論 地理空間情報と人間の未来』(創元社、2018年) ISBN:4422400371

デービッド・バニス, ハンター・ショービー 『ポートランド地図帖 地域の「らしさ」の描きかた』
(鹿島出版会、2018年) ISBN:4306046699

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献をもとに予習・復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

質問は授業中、授業後およびメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系61

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		紀伊山地の歴史地誌 山村と森林の歴史地理学									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、紀伊山地を事例として、歴史地理学的な視点から、山村地域の成り立ちについて議論する。自然環境、古代史、宗教史、政治史、集落形成、環境の利用と改変、焼畑、林業、人口動態に留意しながら、山地斜面に多くの集落が分布するこの地域の特色を理解していく。紀伊山地の人口は集落の形成とともに歴史的に漸増してきたが、1960年頃をピークとして急減していく。その背景には、環境利用の高度化によって、経済地理の拡大に対応できず、生業の柔軟性を低下させたという事情がある。なお本講義は、講師が準備中の著書の内容と関連している。</p>											
【到達目標】											
<p>現在様々な問題を抱える山村地域に関して、その歴史地理的背景を理解するとともに、人間と環境の関係史を広い視野から動的に捉える能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 山村という視点 第2回 限界集落の時代 第3回 山地環境と集落立地 第4回 古代の伝承と痕跡 第5回 山岳宗教・修験道の成立 第6回 山の荘園と「山民」たち 第7回 山村地域が迎えた「近世」 第8回 多彩な生業の諸相 第9回 博物学者がみた近世山村 第10回 焼畑による巧みな森林利用 第11回 焼畑から林業へ 第12回 多様な生業の衰退 第13回 林業の経済地理のなかで 第14回 山村地域の行く末 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(30%)と学期末のレポート(70%)により評価する。前者は授業数回ごとに求めるリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

米家泰作 『森と火の環境史』(思文閣出版) ISBN:9784784219735

米家泰作 『中・近世山村の景観と構造』(校倉書房) ISBN:9784751733508

白水智 『中近世山村の生業と社会』(吉川弘文館) ISBN:9784642029490

池谷和信・白水智 『山と森の環境史』(文一総合出版) ISBN:9784829911999

(関連URL)

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の研究業績など(京都大学教育研究活動データベース))

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>(ORCID (Open Researcher and Contributor ID))

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>(講師のフェイスブック)

<https://researchmap.jp/tkomeie>(リサーチマップ(科学技術振興機構))

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは、メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本帝国と地理的知の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、近代の日本において地理的な表象や言説が果たしてきた政治的・経済的・社会的な役割を、批判的に検討する。近年の歴史・文化地理学では、地理的な表象や言説に関する議論が盛んに行われている。その動向を踏まえて、地図・土地調査・旅行記・地誌・学術調査・史蹟景観をめぐる地理的知の諸相と、その受容や理解の具体例を分析する。その際、本講義では特に朝鮮半島に着目するが、内地や他の植民地にも注意を払う。</p>											
【到達目標】											
<p>地理的な知の役割を歴史的に俯瞰し、その意義を批判的に捉える能力を養うとともに、様々な歴史地理的資料に関する基本的事項を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1．地理的知の近代 第1回 歴史地理学と言語論的転回 第2回 オリエンタリズムと心象地理 第3回 歴史地理学と帝国主義</p> <p>2．朝鮮像の系譜 第4回 近世日本の朝鮮像 第5回 明治日本の朝鮮像と地誌編纂</p> <p>3．植民地のマッピングと空間把握 第6回 朝鮮の測量と地図化 第7回 森林資源の地図化</p> <p>4．学知と植民地 第8回 学知の動員と焼畑の行方 第9回 「知的征服」とその諸相</p> <p>5．史蹟とその経験 第10回 史蹟とコロニアルツーリズム 第11回 史蹟の保存と経験 第12回 征服神話と植民地 第13回 帝国縁辺部へのツーリズム</p> <p>6．帝国日本の心象地理 第14回 「近代」概念の空間的含意 第15回 フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（30％）と学期末のレポート（70％）により評価する。前者は授業に対するリアクションペーパー（3回程度）にもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

J・モリッシーほか（上杉和央監訳）『近現代の空間を読み解く』（古今書院）ISBN:4772231848

B・グレアム，C・ナッシュ『モダニティの歴史地理』（古今書院）ISBN:4772214704

D・リヴィングストーン『科学の地理学: 場所が問題になるとき』（法政大学出版局）ISBN:4588371207

J. Agnew & D. N. Livingstone『The SAGE Handbook of Geographical Knowledge』（SAGE Publications）ISBN:1412910811

米家泰作『森と火の環境史』（思文閣出版）ISBN:9784784219735

（関連URL）

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>（講師の業績など（京都大学教育研究活動データベース））

<https://researchmap.jp/tkomeie/>（リサーチマップ（科学技術振興機構））

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>（ORCID（Open Researcher and Contributor ID））

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku/>（講師のフェイスブック）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する参考文献を含めて，関連する論文や文献に積極的に触れ，問題関心を深めてください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは，メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については，KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		防災研究所 准教授 松四 雄騎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		湿潤変動帯の自然地理学とその応用としての斜面減災論									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、自然地理学の応用としての自然災害（特に斜面災害）の被害軽減（減災）に関する方法論を学び、その実現に向けた基礎データを取得するための野外調査法および室内実験法を実習する。</p> <p>山地や丘陵地が国土の大半を占める日本列島では、豪雨や地震によってしばしば斜面から土砂が流出し、下流域に被害を及ぼす。土砂災害による人的・物的被害は、高度経済成長期以降の砂防・治山事業の拡充による人工構造物の配備により、それ以前と比べて格段に減少してきたが、近年、極端な豪雨の頻度増大により、再び増加しつつある。日本人はそもそも、居住域に隣接する傾斜地（里山）で得られる燃料や湧水といった資源を利用し、その恩恵を受けてきたが、それと同時に斜面の崩壊や地すべり、土石流といった斜面災害の脅威にもさらされてきた。地域に根差した住民が斜面と共生していた時代に培われていた減災のための知恵は、傾斜地での道路敷設や宅地開発といった自然環境の改変行為を可能にした現代的な土木技術の発達と、それによる山際居住区の拡大と新規住民の移入とともに、失われつつある。居住域周辺斜面からの土砂流出による被害を軽減するためには、空間的に飽和し、コスト的にも限界に達しつつあるハード対策だけでなく、住民自力での警戒・避難を促すソフト対策の高度化が不可欠である。そのためには地域の地理環境の成り立ちを深く理解し、それを土台に世代を超えて持続可能な減災方策を備えた地域社会の形成をめざす必要がある。これはまさに自然地理学の応用問題であるといえよう。本授業では、斜面災害の地質・地形的背景（素因）や、降水浸透あるいは地震動といった引き金（誘因）が、なぜ・どのようにして土砂流出を引き起こすのかについて、野外実習と室内実験を通して、自ら地盤構成材料に触れ、その物性を定量的に把握し、データの解析を行うことで体験的に学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>実習形式の授業を通して、温暖湿潤帯における自然地理環境とそこで起こる地球表層プロセスを概観し、山地の斜面をつくる地盤材料の定性的な観察法、およびその水理学・土質力学的性質の定量化法を学び、斜面減災を実現するための自然地理学的方法論について考察できる力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>夏季の集中講義とし、野外および室内での実習形式での授業を行う。</p> <p>授業のスケジュールおよびその中で取り上げるテーマとトピックスは以下の通り。</p> <p>9月5日（火）森林斜面での野外実習（京都近郊丘陵地）</p> <p>9月6日（水）実験室での土質試験（宇治キャンパス）</p> <p>9月7日（木）データ解析およびゼミ（宇治キャンパス）</p> <p>1日目: 野外巡検 京都近郊の丘陵地を対象に、地盤の構成物とその性質および陸域水循環に伴う地形変化過程について概説する。また、過去に発生した斜面崩壊跡地を観察し、森林土壌の断面を作成して、土層試料の採集を行う。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

2日目: 室内実験 + データ解析

採集した試料を用いて、宇治キャンパスにおいて水理・力学的な試験を行う。

3日目: 室内実験 + データ解析 + ゼミ

宇治キャンパスにおいて引き続き実験を行うとともに、得られたデータを用いて、雨の浸透や斜面の安定に関する計算を行い、斜面ハザード評価の方法論について討論する。

テーマとトピックス

- (1) 自然地理学における野外観察の基礎と方法
- (2) フィールドサイエンスにおける理論・法則・モデルの役割
- (3) 人間社会を取り巻く自然環境の成り立ち
- (4) 陸域水循環の概要と流域生態系の恒常性
- (5) 森林水文学の基礎と山地流域における降雨流出過程
- (6) 斜面の地形変化と土砂災害の発生メカニズム
- (7) 地理的な防災・減災の方法論
- (8) 自然地理学における実験法とデータ分析法の基礎
- (9) 地盤構成材料の水理・力学特性とその意味
- (10) 地理情報システムと地形計測
- (11) 地図解析および実験・計測における精度と確度
- (12) データの整理と統計処理の基礎
- (13) 流域表層現象のモデル化と計算法
- (14) 製図法とアカデミックライティングの基礎
- (15) 総括とフィードバック

授業を通じて、野外観察の方法、実験による定量データの取得方法、自然現象のモデル化について習得するとともにフィールドノートや実験ノートの記載方法、データの整理方法、製図や記述の方法等のアカデミックライティングについて具体的に指導する。

フィードバックについては、実習終了後に必要に応じて、教員オフィスあるいはEメールにて質問に答えるほか、レポートに講評を記入することも含む。

【履修要件】

学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に加入していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点(50%)およびレポート(50%)の評価による。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

地理学(特殊講義)(3)へ続く

地理学(特殊講義)(3)

関連する論文等を授業の中で配布・紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

3日間の授業期間中にはデータ解析や討論準備を課題として出すので、ホームワークとしてこなすこと。

（その他（オフィスアワー等））

第一日目は京都近郊の丘陵地でのフィールドワークとなるため、動きやすい靴と服装に手袋や帽子を着用の上、虫よけや雨具、筆記用具・野帳・カメラといった個人装備を揃えて参加すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系64

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		金沢大学人間科学系 教授 中島 弘二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人新世における「自然の地理学」の可能性									
【授業の概要・目的】											
本講義では、近年の英語圏における「自然の地理学」の諸研究を参考にしながら、「人新世」が叫ばれる現代における自然と社会、人間と環境の関係を理解するための新たな視点を探究することを目的とする。											
【到達目標】											
2000年以降の英語圏の地理学における「自然の地理学」研究に対する理解を深めることを通じて、本質主義や技術主義ではない、自然と社会、人間と環境の関係についての社会批判的な視点を身につけると同時に、現代における環境保護や自然保護の問題について、主体的に考察できる力を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>[第1回]イントロダクション 人新世の時代における自然と社会の関係</p> <p>[第2回]人新世と地理学的知 人間中心主義 (anthropocentrism) への批判としての地理学</p> <p>[第3回]「自然の地理学」その1 Neil Smithの「自然の生産」論からNoel Castree & Bruce Braunの「社会的自然」へ</p> <p>[第4回]「自然の地理学」その2 Sarah Whatmoreのハイブリッド地理学からSteve Hinchliffeの「自然の地理学」へ</p> <p>[第5回]都市の自然 / 自然の都市化、その1 都市の政治生態学と都市的自然の生産</p> <p>[第6回]都市の自然 / 自然の都市化、その2 都市における物質代謝とサイボーグ都市の創造</p> <p>[第7回]自然の商品化 大気の商品化 - CO2の商品化 -</p> <p>[第8回]新自由主義と自然 新自由主義的環境管理の台頭</p> <p>[第9回]身体と自然、その1 「人種」と「性」は自然か？</p> <p>[第10回]身体と自然、その2 死と生 - 臓器移植と生殖補助医療 -</p> <p>[第11回]動物地理学の展開 Zoo Geographyから新・動物地理学へ</p> <p>[第12回]動物の人間化 / 人間の動物化 生をめぐる問題</p> <p>[第13回]生政治の問題 動物的な生を取り戻すために</p> <p>[第14回]マルチスピーシーズな自然に向かって</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

水俣病から学ぶこと
[第15回]おわりに
人新世における「自然の地理学」の可能性

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の討論への積極的な参加とコメントの表明（20点）、レポート（80点）により評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。
・授業中に適宜、討論を行ったりコメントを求めることがあります。その場合はできるだけ積極的に自分の意見を述べてください。
・レポートでは、独自の工夫が見られるものについては、高い点を与えます。

【教科書】

参考資料は授業中に適宜配布する予定である。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

集中講義であるため各回の情報を各自で復習し、翌日の授業に応用することが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

・集中講義の開講日程によっては、前期の成績報告が遅れることがあります。あらかじめご了承ください。
・授業中にわからないことがありましたら、積極的な質問を期待します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学文学部 准教授 花岡 和聖			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理情報科学及びその具体的な手法について理解を深める。									
【授業の概要・目的】											
近年、地理学では、国勢調査をはじめとする国の公的統計のマイクロデータのほか、民間企業が提供するビッグデータなど多種多様なデータを用いた研究が行われている。本講義では、地域人口や位置情報に関する定量データの入手、処理、分析、可視化の理論と方法の両面を紹介する。またGISやその他のソフトウェアを用いた地理情報のデータ処理を通じて、講義内容の習熟を目指していく。本講義で扱うトピックとして、国勢調査や土地利用、防災・防犯等のデータを用いた分布図の作成と空間分析、オープンなビッグデータを用いた地域分析・テキスト分析等を予定している。											
【到達目標】											
公的統計や地理情報の入手、集計、分析、可視化の方法を理解する。 地理情報システムを用いて、学生自身で地理情報の可視化、空間分析を実施できる。 地理情報科学に関する研究論文の内容を理解できる。											
【授業計画と内容】											
第01回：オリエンテーション、地理情報科学の現在 第02回：地域統計・地理情報データの入手と活用 第03回-第07回：地理情報の可視化と空間分析の基礎 第08回-第09回：研究図書・論文発表 第10回-第13回：ビッグデータ・テキスト情報の分析等 第14回：プロジェクト成果発表 第15回：地理情報科学の未来											
使用予定ソフト：Excel、ArcGIS Pro、GeoDa、KH Coder等を予定 学内のデスクトップパソコンを使用してデータ処理を行います（ただし、講義内容・PC環境によっては個人のノートパソコンを使用します）。 受講生の関心やGISの利用経験に応じて講義内容を変更することがあります。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価（50%）および2つ程度のレポート（50%） 平常点評価には講義内での発表や作業結果の提出を含みます。											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

『GIS実習オープン教材』(<https://gis-oer.github.io/gitbook/book/>)

矢野桂司 『GIS地理情報システム』(創元社, 2021) ISBN:9784422400648

浅見泰司ほか 『地理情報科学－GISスタンダード－』(古今書院,2015) ISBN:9784772252867

若林芳樹 『地図の進化論－地理空間情報と人間の未来－』(創元社,2018) ISBN:9784422400372

河端瑞貴 『経済・政策分析のためのGIS入門－ArcGIS Pro対応－』(古今書院,2018) ISBN:9784772231992

村山祐司, 駒木伸比古 『地域分析－データ入手・解析・評価－』(古今書院,2013) ISBN:9784772252720

Singleton, A.D. et al. 『Urban Analytics』(Sage,2018) ISBN:9781473958630

Brundson, C. and Singleton, A.D. eds 『Geocomputation: A Practical Primer』(Sage,2015) ISBN:9781446272923

[授業外学修(予習・復習)等]

GIS作業・プロジェクトの完成には授業時間外での学修が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

質問・連絡等はいつでも受け付けます。メール等を気軽に送ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学文学部 教授 土屋 純			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		流通・経済地理学									
【授業の概要・目的】											
本講義では、コンビニ、ネット通販などの身近な産業である流通システムに着目し、流通・消費を分析することで見えてくる日本地理について解説する。さらに、人口移動、都市階層、国土空間の圧縮など、地理学的な用語を理解することで、地理学的な考察力を養成する。											
【到達目標】											
以下の3点が本授業の目標である。 <ul style="list-style-type: none"> ・流通システムの仕組みについて理解する。 ・人口移動、都市階層、国土空間の圧縮、地域格差、都市景観、といった地理学的な用語について理解する。 ・流通の再編成が日本地理の態様に関わっていることを理解する。 											
【授業計画と内容】											
第1回： オリエンテーション：日本地理の特徴と流通・消費との関わり											
第2回： 人口移動と地域市場：3大都市圏の郊外市場はいかにして形成されたのか											
第3回： 人口移動と地域市場：東京の都心回帰がもたらす流通・消費の変化											
第4回： 都市階層と買い物空間：地方都市の百貨店や商店街はなぜ衰退したのか											
第5回： 都市階層と買い物空間：県外に影響を及ぼす最上位の地方都市											
第6回： 都市階層と買い物空間：「ショッピング」で読み解く東京の都市構造											
第7回： 国土空間の圧縮と流通革新：モータリゼーションが変えた流通・消費											
第8回： 国土空間の圧縮と流通革新：コンビニの出店戦略から見る流通											
第9回： 国土空間の圧縮と流通革新：急成長するネット通販と情報化											
第10回： 高齢化社会と流通・消費：買い物弱者はいかにして生まれたか											
第11回： 高齢化社会と流通・消費：買い物弱者を支援する流通とは											
第12回： 地域性の消失と再構築：スーパーとコンビニの品揃えはどのように決まるのか？											
第13回： 地域性の消失と再構築：なぜロードサイドと商店街は同じ風景になるのか？											
第14回： 持続可能な社会と流通・消費：災害時に流通はどうなるのか？											
第15回： 持続可能な社会と流通・消費：人口減少時代に流通は維持できるのか？											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート試験の成績(40%)と、コメントシート(60%)の充実度、で評価します。 コメントシートは毎回の授業終了時に提出してもらいます。											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

土屋純 『地理学で読み解く流通と消費：コンビニはなぜ集中出店するのか』（ベレ出版，2022）
ISBN:978-4-86064-695-0

教科書に沿って授業を展開します。
授業の時には補足資料を配布しながら解説します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業前に該当する章を読んでおいてください。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はいつでも受け付けます。メールやメッセージを気軽に送ってください。
tsuchiya@kansai-u.ac.jpまで

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国立民族学博物館人類文明誌研究部 池谷 和信 教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理学特殊講義									
【授業の概要・目的】											
<p>私たち人類（ホモ・サピエンス）は、アフリカで誕生したあとに地球全体に拡散して地球上にエクメーネをつくりあげていったが、現代のエクメーネは都市域の拡大とともに縮小してきている。本講義では、古今東西の地理学者の研究活動や講義提供者自らによる世界中でのフィールドワークの経験を紹介することをとおして「地理学の見方や考え方」を習得することが目的である。具体的には、現生人類の拡散、農耕や家畜飼育の誕生、そして文明形成などに展開する「ホモ・サピエンスの歴史地理」を展望する一方で、世界の諸地域の現在の暮らしを知ることを通して未来における地球空間の持続可能な利用の在り方について考える。</p>											
【到達目標】											
<p>講義提供者の専門分野を中心とする人文地理学の基礎的な考え方や見方を学ぶとともに、その知見を活用して現代の地球と人のかかわり方について考えることをめざす。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には、以下の構成に従って講義を進める。ただし、社会情勢の影響を受けて各講義の順序を変えることがある。</p> <p>第1回 地理学とは何だろうか：地球学としての地理学 第2回 地理学の方法論：フィールドワークのおもしろさとは 第3回 地理学の思想(1)：川喜田二郎と岩田慶治の人文地理学 第4回 地理学の思想(2)：梅棹忠夫と佐々木高明の民博での研究 第5回 地理学の思想(3)：千葉徳爾と池谷和信の狩猟研究 第6回 ホモ・サピエンスの歴史地理(1) 認知革命と地域：人類の移動と多様な環境への適応、現生人類のみがどうして生き残ったのか 第7回 ホモ・サピエンスの歴史地理(2) 農業革命と地域：農耕や家畜飼育は人類に何をもたらしたのか 第8回 ホモ・サピエンスの歴史地理(3) 産業革命と地域：世界システムの形成と世界と地域のかかわり方 第9回 世界の諸地域(1) アフリカの地誌：乾燥帯と人、ラクダ遊牧民とカラハリ砂漠の先住民 第10回 世界の諸地域(2) ロシアの地誌：ポスト社会主義時代にツンドラで生きる 第11回 世界の諸地域(3) アマゾンの地誌：地球最大規模の熱帯林での暮らしと都市 第12回 地球の未来(1) 人口と食と農：キンシャサ、ケープタウン、東京からの視点 第13回 地球の未来(2) 地球環境と人：温暖化、災害（東日本大震災）、感染症（COVID19） 第14回 地球の未来(3) 世界の諸文明の構図：自然・文化・文明の共生社会を探る 第15回 まとめと総括</p> <p>* フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

討論への積極的な参加（20点）、小レポート（30点）、試験（50点）により評価する。

【教科書】

使用しない
各回において資料を配布します。

【参考書等】

（参考書）
池谷和信 『人間にとってスイカとは何か』（臨川書店）（フィールドワークの方法やアフリカ地誌について参照）
川喜田二郎 『発想法：創造性開発のために』（中央公論新社）（野外科学としての地理学の方法論について参照）
池谷和信編 『食の文明論：ホモ・サピエンス史から探る』（農山漁村文化協会）（ホモ・サピエンスの歴史地理について参照）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示します。

（その他（オフィスアワー等））

授業後の声掛けには応じますのでご遠慮なくご質問してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学文学部 教授 山本 理佳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヘリテージの地理学									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、ヘリテージ（文化・自然遺産）をめぐる諸現象を地理学および近接の人文社会科学分野の学術的視座から検討する。ヘリテージ（文化・自然遺産）は、文化制度との関わりの中で生み出されるというだけではなく、様々な地域的・社会的背景のもとで生起・変化し、また今日の社会に大きな影響を与えうる動的な社会現象としてとらえるべきものである。本授業では、そうした変転する社会とともにある当該現象について、その歴史や現状を学び、それらをとらえる人文社会科学分野の理論的視座に触れる。そうした理解のもと、今日のヘリテージをめぐる現象について、受講生自身が批判的にとらえ、検討することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人文社会科学におけるヘリテージ（文化遺産）に注目した学術的視座を理解できる。 2. 上記の1を用いて、現状のヘリテージをめぐる諸現象の批判的検討ができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 オリエンテーション 第2回 ヘリテージをめぐる様々な議論・見方</p> <p>【ヘリテージという現象の概要】</p> <p>第3回 ヘリテージの生起(1)国民国家とヘリテージ制度 第4回 ヘリテージの生起(2)世界遺産の成立 第5回 ヘリテージの生起(3)後期近代におけるブーム 第6回 ヘリテージの変化(1)文化的景観 第7回 ヘリテージの変化(2)無形遺産 第7回 ヘリテージの変化(3)多様性 第8回 ヘリテージの変化(4)記憶と忘却</p> <p>【ヘリテージ現象をめぐる理論 / 議論】</p> <p>第9回 批判的ヘリテージ研究(1)イデオロギー、表象のポリティクス 第10回 批判的ヘリテージ研究(2)後期近代 第11回 批判的ヘリテージ研究(3)観光 第12回 対話的ヘリテージという視座(1)二元論的視点 第13回 対話的ヘリテージという視座(2)相対化と対話 第14回 ヘリテージと地理学的視座</p> <p>第15回 まとめとフィードバック</p> <p>授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

各授業回のコメントシートあるいはディスカッションにもとづく平常点（40点）、期末レポート（60点）で評価する。

【教科書】

ロドニー・ハリソン（木村至聖ほか訳）『文化遺産といかに向き合うのか』（ミネルヴァ書房，2023年）（2023年3月末出版予定）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前後に教科書を読んで予習・復習する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		岡山大学教育学域 教授 松多 信尚			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		災害の地理学									
【授業の概要・目的】											
本授業では、前半は自然災害の原因となる自然現象とくに地震について変動地形学が果たした貢献と現状の課題について説明し、後半は自然災害について社会の変化に伴う自然災害の変化と防災減災および防災教育の変化について理解し、地理学の可能性と役割について議論する。											
【到達目標】											
災害、防災、減災について地理学的に理解し、自身の研究、学習、経験した内容と結びつけて議論できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要と導入 2. 変動地形学の基礎 3. 変動地形学の今までの貢献 4. 変動地形学の課題 5. 変動地形学の可能性 6. 変動地形学による地震予測 その1 7. 変動地形学による地震予測 その2 8. 変動地形学の今後の展望 9. 自然災害とは何か 10. 自然災害に結びつく自然現象と人の影響 その1 11. 自然災害に結びつく自然現象と人の影響 その2 12. 減災と防災 13. 災害が社会に与える影響 14. 防災教育と地理学の役割 15. まとめ <p style="margin-left: 40px;">授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業内でのディスカッションとレポート。3対7の比率											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に出された課題について考えてくること。

(その他(オフィスアワー等))

メールにて随時受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系70

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 杉江 あい			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地誌の歴史と現代的意義									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は地誌の歴史的背景と学術的展開を学び、地誌の現代的意義と課題について検討する。地誌は歴史的に権力や軍事行動と密接に結びついてきたことや、記述者の位置性をめぐって、批判にさらされてきた。現在、学術的に地誌は衰退したと言われる一方で、地理教育においては依然として地誌学習が重要な役割を持っている。この授業では、こうした地誌の歴史的背景と学術的、社会的な位置づけを踏まえた上で、地誌が地域理解および地理教育において果たしうる役割の可能性と課題を、出席者1人1人が主体的に考えることができるようになることをねらいとする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・地誌の歴史と学術的な展開、社会的な位置づけについて理解する。 ・地誌が地域理解および地理教育において果たしうる役割について考察できる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回目 オリエンテーション 第2回目 古代・中世の地誌 第3回目 植民地支配と地誌 第4回目 近代における地理学の成立と地誌 第5回目 地政学と兵要地誌 第6回目 戦後における地誌の衰退 第7回目 英語圏の「新しい地誌」 第8回目 非英語圏の「新しい地誌」 第9回目 地理的表象の危機と地誌 第10回目 映像人類学からの示唆 第11回目 地理教育と地誌(1) 地誌学習の変遷 第12回目 地理教育と地誌(2) 教科書記述の問題 第13回目 世界認識ツールとしての地誌 第14回目 地誌の学問的・社会的な位置づけ 第15回目 まとめとフィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<ul style="list-style-type: none"> ・第2回目～14回目の授業後に提出するコメントシート(4点×13回=52点)、期末レポート(48点)で評価する。 ・コメントシートと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。 ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の参照・引用 											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

をする等の努力が認められる場合も高く評価する。

・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。

・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

[教科書]

授業でレジユメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

熊谷圭知・西川大二郎編 『第三世界を描く地誌 ローカルからグローバルへ』(古今書院、2000) ISBN:978-4772250498

熊谷圭知 『パプアニューギニアの「場所」の物語 動態地誌とフィールドワーク』(九州大学出版会、2019) ISBN:978-4798502489

クリフォード、J.・マーカス、J.編 『文化を書く』(1996、紀伊國屋書店) ISBN:978-4314005869

森川 洋 『人文地理学の発展 英語圏とドイツ語圏との比較研究』(2004、古今書院) ISBN:978-4772240536

[授業外学修(予習・復習)等]

受講生は授業(金曜4限)後の次の日曜までにコメントシートをまとめてワードまたはPDFファイルで授業担当者に提出すること。提出方法については第1回目の授業で説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは火曜15半~17時半。必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 杉江 あい			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Bangladeshの動態地誌：国家・開発・経済									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、地域間および特定の要素間の関係に着目した Bangladeshの動態地誌を通じて、地誌を含む地理的知の政治的・社会的影響と、地誌を通じた地域理解、世界認識の可能性と課題について検討することを目的とする。</p> <p>本授業は三部構成になっており、それぞれ下記のテーマを扱う。</p> <p>第一部 英国植民地統治に伴って実施された地誌編纂が植民地期 / 独立後の国家および社会に及ぼした影響</p> <p>第二部 冷戦体制下において「低開発」の「第三世界」とされた Bangladeshにおいて行われた開発</p> <p>第三部 安価な労働力の供給地として近年、注目を浴びるようになった Bangladeshと日本との関わり</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ Bangladeshの国家の成り立ちや開発、経済成長の動向と、これらにまつわる諸問題について理解する。 ・ 地誌による地域理解、世界認識が孕む問題と可能性について考察することができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回目 オリエンテーション</p> <p>第一部 科学の「実験場」としてのインド</p> <p>第2回目 分割統治と地誌</p> <p>第3回目 国民国家と地理的知</p> <p>第4回目 ポストコロニアルの苦境 (1) 宗教間対立</p> <p>第5回目 ポストコロニアルの苦境 (2) 難民</p> <p>第6回目 ポストコロニアルの苦境 (3) カースト差別</p> <p>第二部 援助の「実験場」としての Bangladesh</p> <p>第7回目 冷戦の地政学と国際開発</p> <p>第8回目 開発のオーナーシップ (1) 農村開発</p> <p>第9回目 開発のオーナーシップ (2) 人口抑制</p> <p>第10回目 開発のオーナーシップ (3) NGOの第2の行政化</p> <p>第11回目 開発のオーナーシップ (4) マイクロファイナンス</p> <p>第三部 ネクスト11としての Bangladesh</p> <p>第12回目 (新) 国際分業における Bangladeshの位置づけ</p> <p>第13回目 ファストファッション産業から見る Bangladeshと日本</p> <p>第14回目 日本に暮らす Bangladesh人</p> <p>第15回目 フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

前期に地理学特殊講義「地誌の歴史と現代的意義」を履修することが望ましいが、履修していなくても受講可能。ただし、「地誌の歴史と現代的意義」を履修しなかった人は、第1回目のオリエンテーションにできる限り出席してください。

【成績評価の方法・観点】

第2回目～14回目の授業後に提出するコメントシート（4点×13回＝52点）、期末レポート（48点）で評価する。

- ・コメントシートと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。
- ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の参照・引用をする等の努力が認められる場合も高く評価する。
- ・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。
- ・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

【教科書】

授業でレジユメを配布する。

【参考書等】

（参考書）

長田華子 『バングラデシュの工業化とジェンダー#8212日系縫製企業の国際移転』（2014、お茶の水書房）ISBN:978-4275010582

向井史郎 『バングラデシュの発展と地域開発』（2002、明石書店）ISBN:978-4750316666

Breckenridge, C. A. and van der Veer, P. 『Orientalism and the Postcolonial Predicament: Perspectives on South Asia』（1993、University of Pennsylvania Press）ISBN:978-0812214369

【授業外学修（予習・復習）等】

・受講生は授業（金曜4限）後の次の日曜までにコメントシートをまとめてワードまたはPDFファイルで授業担当者に提出すること。提出方法については第1回目の授業で説明する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜15半～17時半。必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。